515
57

フランス刺繍とダツチング

金澤靜子著

始

575-57

フランス刺繍と タッチング

金澤靜子著

帝國圖書館藏

大正
12.5.2
内交

アルス婦人叢書

アルス婦人叢書に就いて

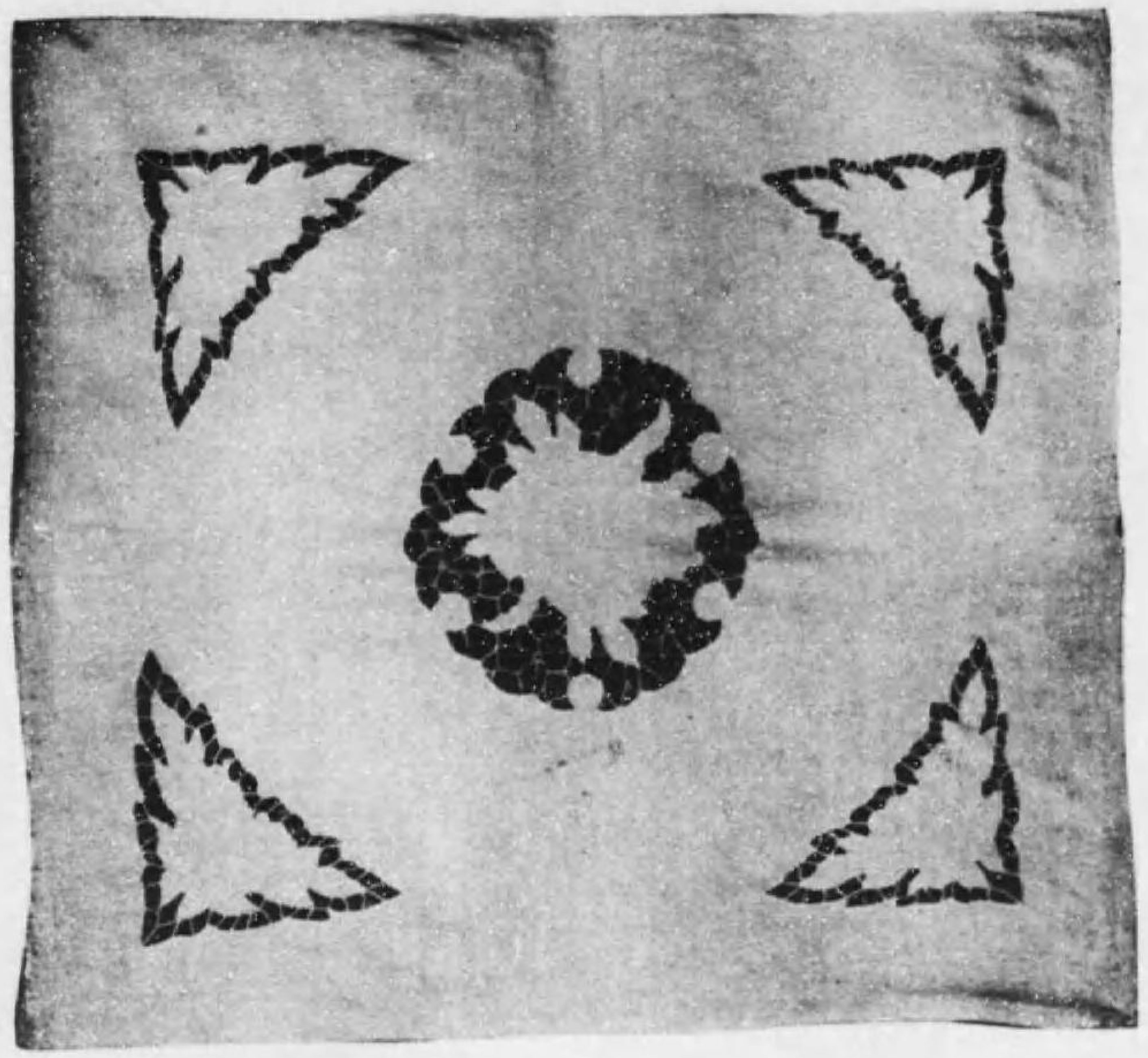
アルス婦人叢書は、婦人の生活を内部からも外部からも革新し、婦人の使命を完からしめんが爲の寄與である。昔からいふ衣ること、食ふこと、住むことの凡ても、內からの要求が目覺めてきて初めて新しい試みが行はれる。女性は目覺めた。現代に應ずる生活の樣式は日に日に革新されつゝある。聰明なる主婦は新時代の文化を吸收して、內面的にも外面的にも家庭の意義をより良く完成することに努めてゐる。この際、わがアルス婦人叢書の刊行は最も時宜に適した企劃であると信ずる。各篇自ら內容の題材と目的は異つてあつても、その內よりするものと、外よりするものとの孰れを問はず、最善の用意を以て編述され、生活をよき方面へといふ一語を目標として各篇の精神を一貫せしめんとするものである。

大正十二年四月

編　者

フランス刺繍をぬふ時の姿勢

フランス刺繍應用の座蒲團カバー



アートステッチ應用の手さげ

同じく學校行きの手さげ

フランス刺繍を應用したる窓かけ

タッチング、手さげ

七寶つなぎ

目次

フランス刺繍に就いて……三

用　具……五

縫ひ方の説明……六

作品の技巧と仕上がり……七

色彩について……八

アートステッチの説明……九

基本縫五種……一〇

應用の(一)　襦袢の袖口……一五

應用の(二)　よだれかけ……一七

應用の(三)　回數券入れ……一九
應用の(四)　手提げ……二一
應用の(五)　帶〆……二四
應用の(六)　買物袋……二六
應用の(七)　鏡掛け……二六
應用の(八)　薔薇の圖案手提げ袋……三〇
應用の(九)　學校行手提げ……三一
クロースステッチ……三三
カットウオーク……三五
スカラ縫カットウオーク……三八
卷き縫カットウオーク……四〇
穴あきの説明……四三
糸のつなぎ方……四六

肉あげ……四七
線縫……四八
應用の(一)　まくらカバー……四八
應用の(二)　ハンケチ……五一
應用の(三)　赤ん坊用帽子……五四
應用の(四)　よだれかけ……五六
應用の(五)　花瓶敷……五七
應用の(六)　ざぶとんカバー……五九
應用の(七)　敷物……五九
應用の(八)　子供服……六一
タッチング編物……六三
シャツターと絲……六三

編物の説明……六三
基本編(1)の編方……六四
基本編(2)の編方……六六
基本編(3)の編方……七二
基本編(4)の編方……七三
二本の絲を使つて編む編方……七四
基本編(5)の編方……七六
基本編(6)の編方……七六
基本編の應用……七七
基本編(7)の編方……七八
基本編(8)の編方……七八
基本編(9)の編方……八〇
基本編(10)の編方……八〇

基本編(11)の編方……八一
簡單な手さげ……八二
手さげ　花つなぎ……八四
手さげ　七寶つなぎ……八六

本文挿圖目次

布と針の持ち方……六
絲の引き方……七
フエザーステッチ……一一
チエーンステッチ……一三
スカラ縫……一四
フレンチナッツ……一五
袖口の圖案……一六
スカラ縫の芯の入れ方……一六
よだれかけ……一八
回數券入れ……二一
花の芯の縫方……二三

まき縫の仕方……一二
手さげの圖案……一三
手さげ出來上がり……一四
シーズステッチの絲の出し方……一六
買物袋の圖案……一七
きつから縫……一八
かゞみかけ圖案……一九
薔薇の圖案……二一
學校行手さげ圖案……二二
クロースステッチの圖案……二四
スカラ縫カツトウオークの縫方……三七
まき縫カツトウオークの縫方……四一
穴あきの縫方……四四

まくらカバー……四九
蝶の胴の縫方……五〇
蝶の圖案……五〇
芯の入れ方……五一
ハンケチ圖案……五二
赤ん坊用帽子……五五
よだれかけ(1)……五五
よだれかけ(2)……五六
花瓶敷……五七
ざぶとんカバー中央の圖案……五八
さぶとんカバー角の圖案……五八
敷物又はクッションなどの圖案……六〇
子供服……六〇

タッチング編み方の說明……六五
基本編の編み方說明……六七
枝折の編み方……八一
手さげの編み方……八三
手さげ出來上り……八四
花つなぎ手さげ……八五

フランス刺繡とタッチング

フランス刺繡に就いて

フランス刺繡と一口に申しますが、仕上つたところは同じやうに見えても、イタリイ刺繡もあれば、スペイン刺繡もあつて、フランス刺繡でも、ほとんど日本刺繡と見分けのつかないものもございます。

それなれば、フランス刺繡が、他の刺繡と異なれる點、その特徴とするところは何かと申しますと、細かしいところは以下おひ〳〵に申上げるとして、一方あくまで、あかぬけて、清楚で、美術的であると同時に、又あくまで實用に適する點なのでございます。

在來の刺繡が持つ缺點の一つは、洗濯の出來ないことでした。額面、帶、裾模樣などにした、日本の美しい刺繡は、西洋人も驚きの目をもつてその技巧を褒めたゝえます。實際純美術品として、日本の刺繡は他に比類がないと云へませう。然し洗濯が出來ないために、裝飾としては用ひられても、一般に實用として用ひることは出來ないのでございます。

西洋では、布と云ふ布には必ず刺繍をして用ひ、決して無地で用ひることなどはないと云つてもよいでせう。窓帷（まどかけ）、テーブル掛、クッション、皿敷、花瓶敷、ランチセット、ハンケチ、いろ〳〵のカバー類は云ふまでもなく、暖かいパンがさめないやうに包んでおく布にまで刺繍がしてあります。その外、エプロン、下着類は必ずフランス刺繍を致します。外國の流行は極端から極端に、思ひ切つてうつり變りが烈しく、殊に婦人服裝の流行は、目まぐるしいやうに變つて行きますが、その中にあつて、何時如何なるときにも、フランス刺繍のつかはれない時はないのです。フランス刺繍は一切の流行を超越して、永久に應用されて居ると云ひ得るのです。

指先きの仕事に特殊の技能を持つて居る、日本婦人の仕事として實に適當なものと思ひまして、私は十數年の海外生活の大部分をそれらの研究に費しました。

次に申上げるフランス刺繍は、その研究の結果として、彼の國に行はれて居る技術に、小さいながら自分自身の考へをまじへて、創案致しました金澤式フランス刺繍と名づけて居るものでございます。

これは充分に洗濯に耐える方法で縫ひますから、幾年でもその布地（きれぢ）のある間は、縫ひくづれて

見苦しくなるやうなことはございません。そしてその仕上げられたものは全くの装飾品で、非常に品のよい、美はしい趣を備へて居ります。又他の刺繍では枠の必要があり、枠はその仕事の大小に應じて、幾種かなくては不自由ですからたくさんそろへなければならず、なか〳〵道具が入りますので、私の刺繍はそれ等の面倒なものから一切はなれて、枠も臺も使はず、極く纖細なハンケチのやうなものから、テーブル掛、窓かけなどの大きいものまで、唯針一本で、何處でゝも手輕に致されます。洗濯に耐えるため、仕上げ縫ひよりも、芯に深く注意するのも特徴です。從つて糊（のり）などは少しも使ひません。

用　具

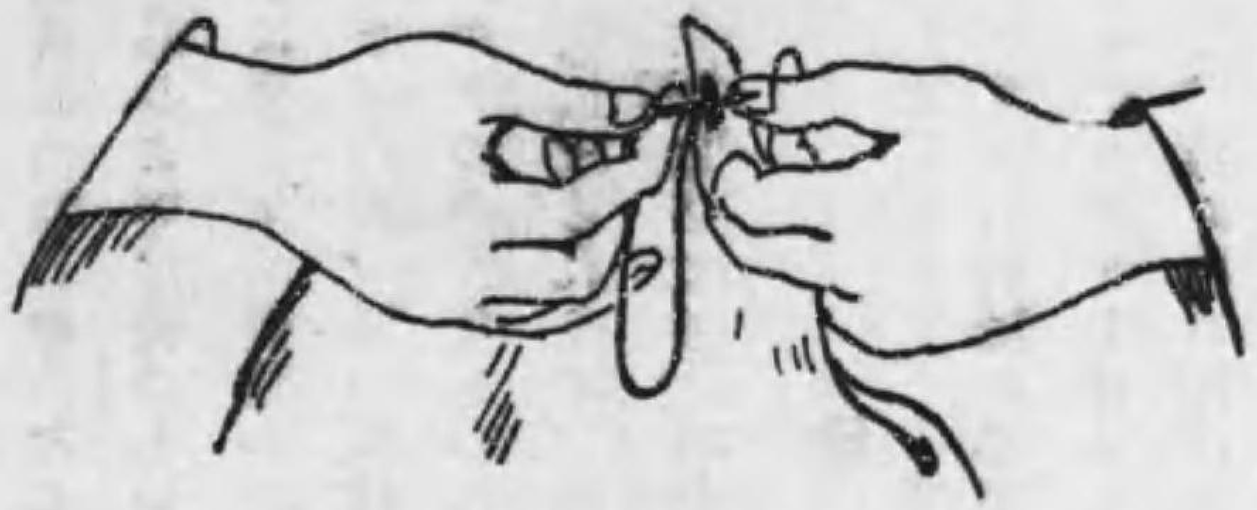
フランス刺繍に必要なものは、布地に針と糸、先のよく切れる鋏、極細かいものゝ穴を明けるときにメウチを使ふときもあります、これは金の編棒でも間に合ひます。フランス刺繍用の糸として、特に色のはげない色糸がありますが、手近なもので早速練習をなさり度い方は、糸は絹小町、針は普通裁縫用の四ノ三か・太い糸の時は三ノ三をお使ひになれば出來ます。

縫ひ方の説明

口繪のやうな姿勢で、先づ縫ふべき型のある部分の布を、布目の歪まぬやうに、左の人差指に卷きつけ、それを拇指と中指で押へます。針の當る場處は、人差指の爪と腹との中間ですから、縫つて居る模樣はいつでもその小區域に正しく置かれます。

人差指の先が、自分の胸の方を指すやうにすれば、拇指は自然にそれと直角に横になります。左手は常にこの位置を保たせます。

右手は、針を拇指と人差指に中指を添えて持ち、型の線の右側から刺して、左側へ出します。このとき布の卷きつけ方があまりかたいと、針を指に刺しますから、布目の歪まない程度に、輕く浮かせるやうにして針を通らせます。



布と針の持ち方

針の向は左の人差指とは十文字に、拇指とは平行させ、そして拇指

の爪の山の中程に、針がいつも當るやうにいたします。

針を拔く時は、左手はそのまゝにして、靜に針先の向いた方へ引出します。これは糸のつやの消えないためにも、針目を揃へるためにも肝心なことで、糸が長いときには自然に左手が斜に右下に行き、右手は左の耳の邊に向ふやうになります。圖の點線はこのときの身體の中心を示したものです。

糸の引き方

作品の技巧と仕上がり

出來上つた作品の理想を申しますと、絲の光澤が完全に、原糸の儘の色と光澤を保つて居て、

自然にすら〳〵と出來て居るのが、最も上出來なものであります。ですから刺繡中は、布に決して無理のないやうに注意が大切です。布に無理をなさると、くしやくしやな垢拔けのしないものが出來、絲の美しい色も、そのつやゝかさも失はれてしまひます。

又糸を引く時も決して反對の方面に引かず、針先の向つた方に引かないと、糸の撚りが戻つたり、よれたりして仕上げがきたなくなります。

色彩について

純粹のフランス刺繡は純白です、白リンネルの生地に、雪のやうに白い艶やかな糸で、さながら白百合のやうな、氣品ある美しさに仕上げられるのです、それで、ものによつて色糸を使用する場合も、生々とした自然さ、上品なやさしみのある感じからはなれないで、奥床しい色の配合を撰び、フランス刺繡獨特の高尚な姿を保ちたいと思ひます。たとへば靑と赤との極めてくどい調子の配合とか、黃と紫のかけはなれた突飛な色などを用ゐたくないと思ひます。

アートステツチの說明

フランス刺繡についての、大體のことはお分りになつたことと存じます。そのお稽古を始める前に手ほどきとして、アートステツチをいたしませう。このアートステツチは一名ベビーステツチと申しまして、子供にも出來る程、簡單なものですけれど、應用もひろく、可愛らしい美しい仕事で、針の使ひ方、布の持方・糸の引き方の練習をなさりながら、手提げやハンケチや、いろ〳〵美しいものが出來て行きますから、思はず知らずはかが行つて、愉快に技術が進んで行くと思ひます。この縫方は何れも、糸の扱ひ方が單純で、白地に白糸で縫つては、あまり引立ちませんから、色糸で致します。

やさしいとは云つても、細かしい手藝を文字の上で傳へるのは、傳へる人も、習ふ方も中々困難な仕事です。お分りやすいやうに、一生懸命苦心致して居ります。どうぞ氣長に一つゞゝ試みて御覽下さいませ。系統を立てゝ說明いたしてありますから、最初の一つをしんみり味はつて見れば布の持ち方、針の扱ひ方などが凡そのみこめます。それが分れば第二は初めより餘程らくに、

解することが出來ませう。第二が縫えるやうになれば第三は苦もなく會得される筈です。先を急がないで一歩一歩、堅實に歩みつゞけてこの一冊の本の終りまで行けば、きつとその進歩にお驚きになるでせう。

基本縫五種

アートステッチの基本縫がこれだけと云ふのではありません。一番多く使はれて、又一番縫ひやすいものを選み出したのです。

先づ練習布として、キヤラコでもなんでも有合せの布を少々と、糸と針、鉛筆を用意して、縫方の説明のところを開き、もう一度讀みながら、左手に布を巻き、右手に針を持つて、縫ふ仕度をなすつて下さい。

(一)の說明　これは壓を押さないでも縫えます。(イ)の裏から表に針を出し、(ロ)の表から裏に針をさし、(ハ)のところまで布をすくつて、表に針をぬくとき、(イ)と(ロ)の間の糸をかけて引つぱります(糸を引くときは左の耳の方へ向けて引くことは前に申上げました)

それからその引いた糸を(ホ)の方に引き、(ロ)と(ホ)の間が直線になるやうに、左の拇指で、(ホ)のあたりを押へ、(ニ)から(ホ)まで布をすくつて、糸をかけて針を抜きます。これを繰返し繰返し、長く縫つて行きます。

(一)

フェザーステッチ

(二)

フェザーステッチ

(二)の說明　前の縫方をやや復雜にしたのです。どこに針をさしてよいか、抜いてよいか見當がつかないやうでしたら、イ、ロ、ハ、ニ、と符號をつけたところに、鉛筆で點を打つて置きます。(イ)(ロ)(ハ)は、(一)の說明(イ)(ロ)を縫ふのと同じです、次に(ハ)に出た糸を(ホ)のところで押へ、(ニ)から(ホ)に糸をかけて針を出し、(ヘ)から(ト)に糸をかけて出し、その糸を

（リ）のところで押へて、（チ）から（リ）に糸をかけて出し後はこの順序を繰返します。

このやうな縫方をフェザーステッチと申します。子供の洋服の飾りなどに最も適した可愛いい縫方です。

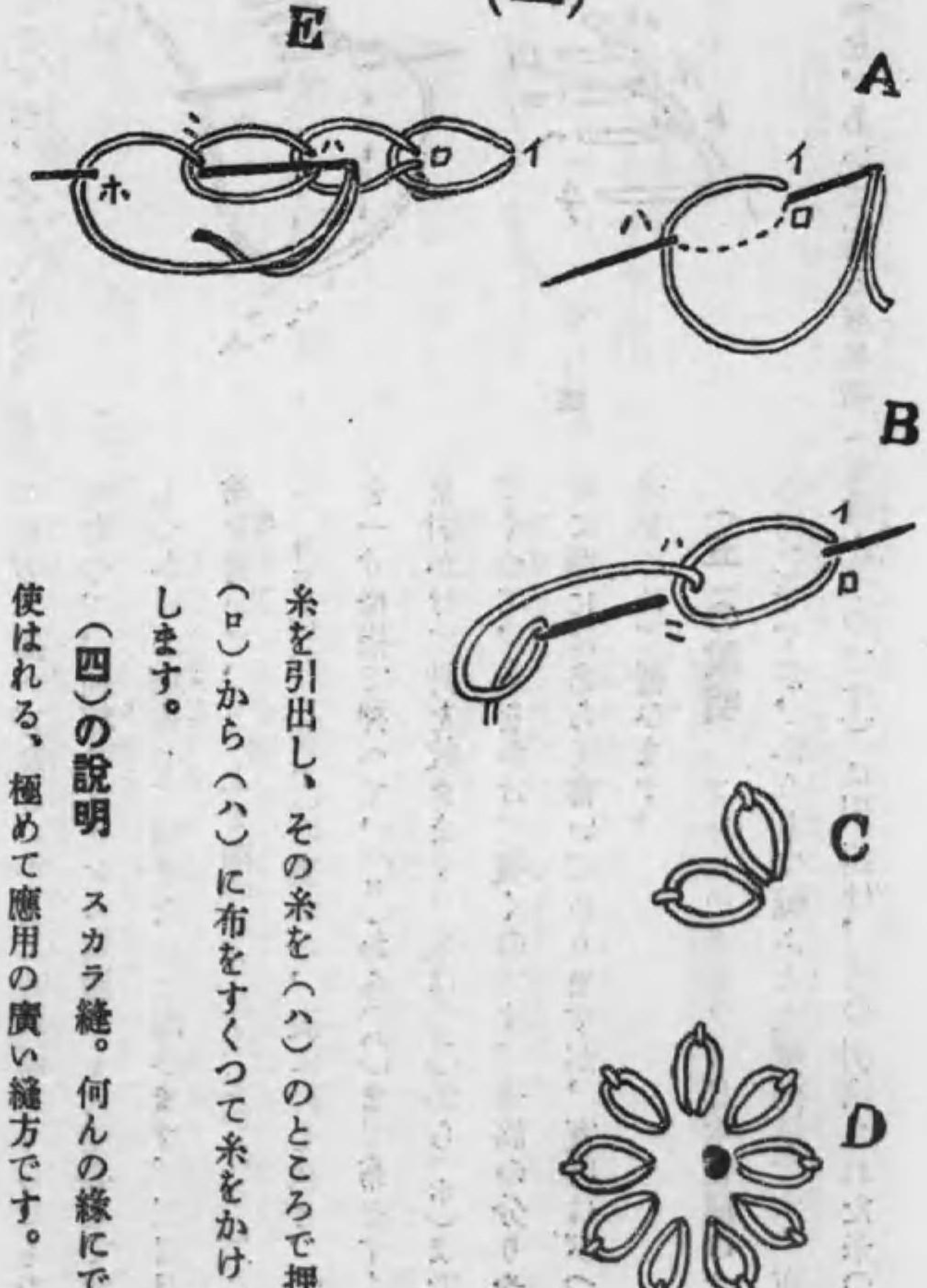
（三）の説明　チエーンステッチ、Eを御覽になると、いかにも鎖縫ひと云ふ名がふさはしいとお思ひになりませう。鎖のやうにつゞけてもいろ〳〵使ひ道がありますが、その縫方を一寸變へて、Cのやうな葉にしたり、Dのやうに花にしたりしますともつと面白く使はれるのです。

（A）（イ）の裏から表に針を出し、左の拇指で、（ハ）のあたりでその糸を押へ、（ロ）から（ハ）に針をぬき、（B）次に、（ニ）のところに針を刺して（イ）に抜きます。これで一つの葉が出來ました。（C）のやうに縫ふときはこれをもう一つつゞけて縫ふのです。

（D）今縫つた葉の元の方を少しはなして、丸く花のやうにしたのです、縫方はよくお分りと思ひます、ただいきなり布に縫つたのでは形が出來ませんから、花の形を鉛筆で布に寫して、その上を縫ひます。

（E）（イ）の裏から表に針を出し、（ロ）のあたりで糸を押へ、再び（イ）に針を刺して、（ロ）に

（三）

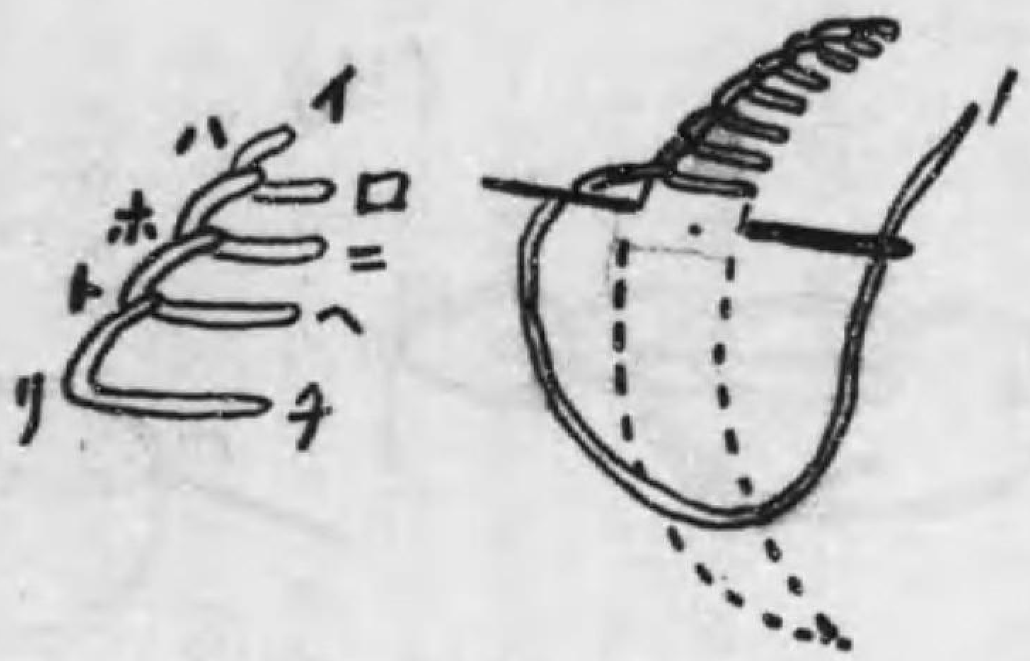


糸を引出し、その糸を（ハ）のところで押へて、（ロ）から（ハ）に布をすくつて糸をかけて引出します。

（四）の説明　スカラ縫。何んの縁にでも必ず使はれる、極めて應用の廣い縫方です。

縫方は同じですが、芯の入れ方、糸のつめ方、揃へ方など、手をとめればいくらでもむづかし

（四）



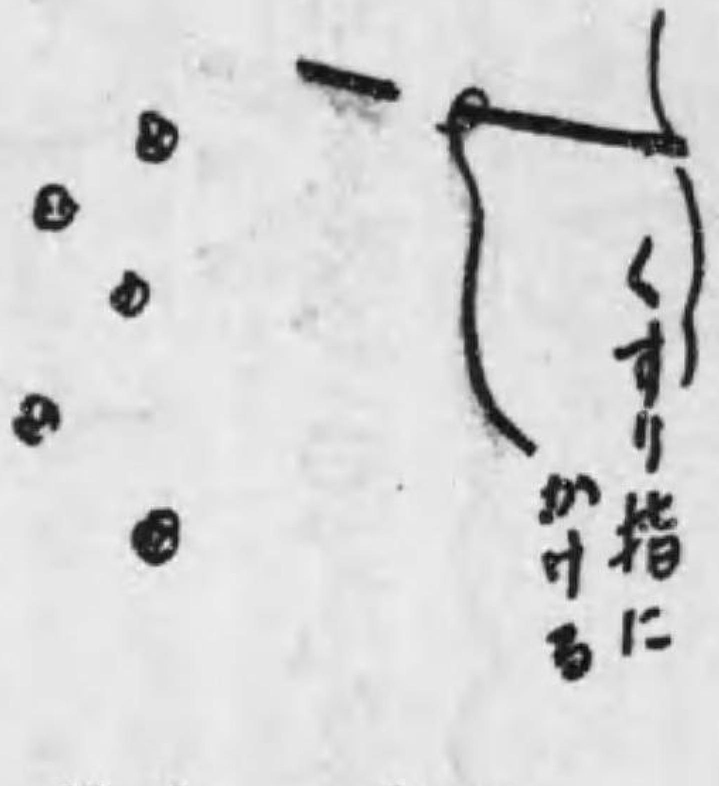
スカラ縫

くなつて、純粋のフランス刺繍でも大變必要ですから、しつかりお稽古して頂きたいと思ひます。三日月形に下繪を書いて、その上を圖のやうに糸をかけるのです。（イ）（三日月形の一番上）の裏から、表に針を抜き、（ハ）の邊を一寸拇指で押へて、（ロ）から（ハ）まで布をすくひ、糸を引かけて針を抜きます。次は（ニ）から（ホ）までの布をすくつて、糸をかけて抜くのです。糸筋の分りやすいために圖にはあらく書いてありますが、實物はびつしりと糸をつめて縫ひます。

（五）の説明　フレンチナッツ。日本刺繍のサガラ縫と同じですが、かうして縫ふと大變簡單です。布の表に引出された糸を、あいて居る無名指（無論左手のです）に引掛け、その引出された糸の元から

無名指までの間で、針に糸を一つ絡め（大きい玉をつくるには二つ或は三つ絡げる）今出て居る糸の目より、一厘程右によせたところに針を刺し、次に繡ふところにその針を抜きます。

（五）



フレンチナッツ

應用の（一）　襦袢の袖口

今迄の基本縫のお稽古が充分に出來ましたら、有合せの布で、どなたにもすぐお役に立つ襦袢の袖口の縫方を申上げませう。

生地は何んでも隨意です、夏は一重、冬は裏をつければお暖かで宜いでせう。ここではメリンスの生地に絹小町の糸で繡ふつもりでお話し致します。

はじめ生地を平にして、一の圖案を袖口の大きさだけ描きます。糸を二本にして花は（三）の説明のDです。莖は（二）の説明のところどころに、チエーンステッチのCを縫つて葉に致します。それから花も莖も同じ色でなさるのでしたら、片端か

らずん／＼どちらからでも仕上げて行きますが、別々な色のときは、先づ花だけを先に縫つて置いて、あとから莖だけ縫ひます。そしてその莖が花の側まで來ましたら、その糸で花の中にフレンチナツツで芯を入れて、次の莖に移るやうにいたします。それは裏にあまり大きな針目を出さないためです。

袖口の圖案

スカラ縫の芯の入れ方

縁のスカラ縫には芯を入れます。芯の入れかたは、(イ)のところから(ロ)まで型の外側を小針に縫ひ、そこから今度型の内側をイまで還り、又(ロ)まで型の中央を縫つて行き次に移ります。かうしてすつかり下縫を終りましたら、仕上げ縫のスカラ縫を左から右に順々に縫ひます。それ

が出來ましたら、それを縁にして、外側の布を切り取ります。

應用の(二)　よだれかけ

可愛らしい、赤ちゃんのよだれかけを申上げませう。生地はリンネルが一番よいのですが、何でも有合せの布をお使ひ下さいませ。

型をつけるのに、地の厚いものは寫すわけにも參りませんし、畫を見て、すぐと同案を布にお書になるのは、餘程おなれになつた方でなければ無理です。フランス刺繡の材料店には、それ／＼よい圖案を描いた布を賣つて居りますが、それがお手に入らないとき、又此よだれかけをすぐ縫ひたいと思ふときは、次のやうな方法によつて致します。

第一の方法としては、ごく薄い紙に圖案を描きます。そして、それを縫ふべき布の上に置いて濃い鉛筆で大體の線だけ、畫の上をなぞりますと、紙が破けて線が殘ります。細かいところは圖案を見て書き加へます。それと同じにして、ぽつぽつと點で殘しても宜しうございます。たとへば、菊の花でしたら あとさきだけ點で 記して置いて、縫ふときは原の圖を見ながら縫つて行き

よだれかけ

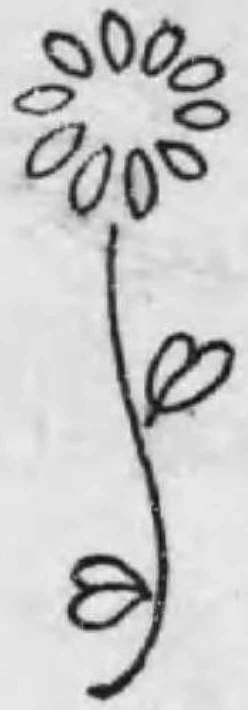
ます。

更に他の方法はビロードなど、鉛筆のきかないものにするので、初めはやはり薄い紙に圖案を寫しとり、それをしつけ糸で、縫ふべき布の上にすつかり縫ひつけてしまふのです。紙は破いてすてゝ、そのしつけ糸をたどつて縫ひ終えましたら、あとで裏からそのしつけ絲を切つてすてるのです。

又、薄い紙に寫しとつてから、下に炭酸紙を入れて、布に寫す方法もありますが、これは餘程よい炭酸紙でないと失敗しますから、第一の點で寫す方法が一番宜しいと思ひます。

型が押せましたら、眞中の花のところから縫ひはじめます。チエーンステッチを一つでは淋しいので二重にします。莖はフエザーステッチ。葉はチエーンステッチ。模様が縫えましたら、へりをスカラで仕上げます。首のまわりにテープか何か細い布で紐をつけます。

原の圖



点で残した圖案

應用の(三)　回數券入れ

莖に使ふ新しい縫方を練習布にお稽古して下さい。

(1.) アウトラインステッチと云ひます。(イ)の裏から表に針を出し、(ロ) に針を刺して、(ハ) のところへ出し、同じく(ニ)から(ホ)の間の布をすくひ、(ヘ)から(ト)に同じく布をすくひ、次へ〱と半分づゝ返して進みますから、半返しとも云ひます。

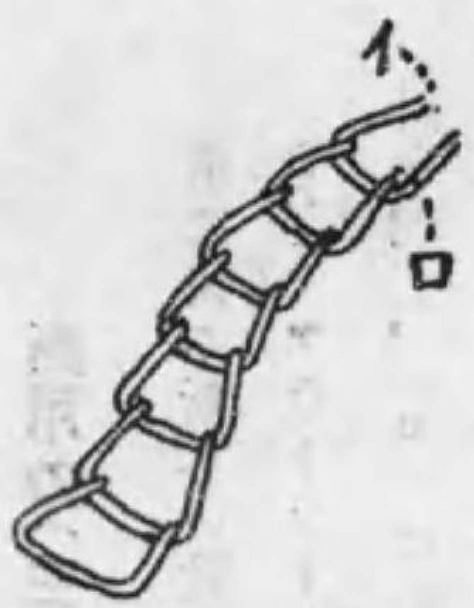
もう一つリボンの縫方はチエーンステッチ應用ですが、針を出したところより、入れるところ

を、その型に合してひろげますと、梯子のやうになつて面白くつながります。

お稽古が出來ましたら、長さ八寸、幅三寸に仕上げられる布に、へりと、圖案を描き、模様の

(I)

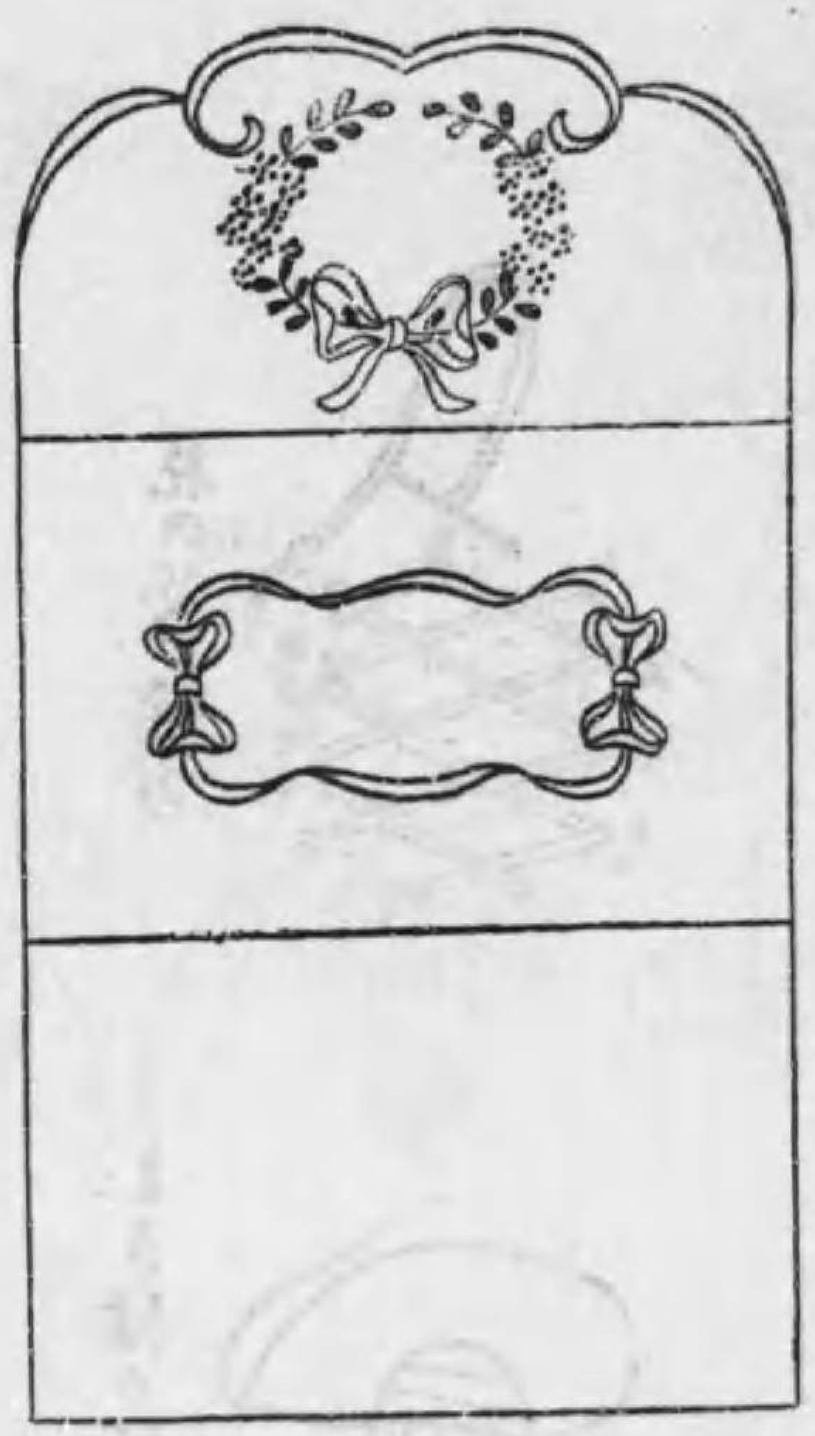
應用三の新らしい縫方



リボンをチエーンステッチ應用で、幅の廣いところ狭いところをよく注意して縫ひます。花はフレンチナッツで、糸は空色、五つづゝ縫つて、眞中の一つへ黄の糸を同じ縫方で入れますと、それが匂のやうに見えて可愛らしい忘れな草の模様になります。莖は半返し、葉はやつぱり二重のチエーンステッチにして置きます。

へりのスカラ縫は、幅の廣いところは下縫を三度、狭いところは一度にして、あまり廣くなく仕上げます。

出來上がりましたら、中裏にして紙入れのやうな形に折り兩端を千鳥にかがります。フレンチナッツとスカラだけ二本糸で、あとは一本糸で仕上げます。一寸した贈物にして大變氣が利いて重寶です。



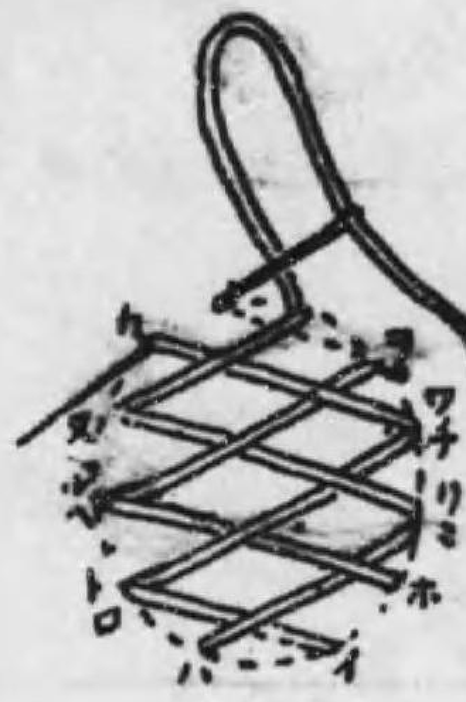
回數券入れ

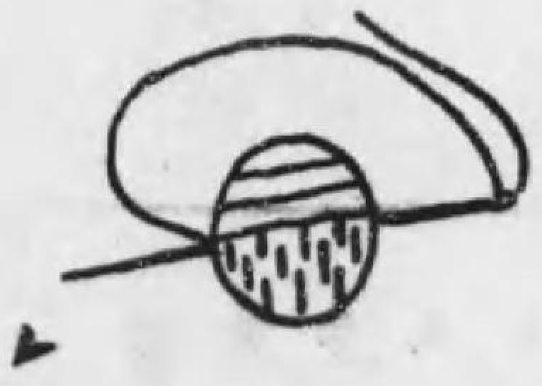
應用の(四)手さげ

まき縫の練習。ロのところの玉がまき縫になつて居ますから、それを先づお稽古を致しませう。初め丸い形を小針に縫ひ、次に中を雜を刺巾すやうに下縫します。仕上げ縫は下縫と十文字になるやうに糸をかけて、すき間のないやうに縫ひます。

花のシンの縫方。キャッチスケッチ縫上がりが綺麗で早く縫えて、應用も廣いのですが、糸の

かけ方がなれるまで少し面倒に思はれます。たび〜練習をなすつて下さい。初め(イ)の表に糸を引出し、(ロ)に針を刺し、(ハ)から抜きます。次(ハ)から(ニ)に渡し、(ニ)から(ホ)に針を


花の芯の縫方


まき縫の仕方

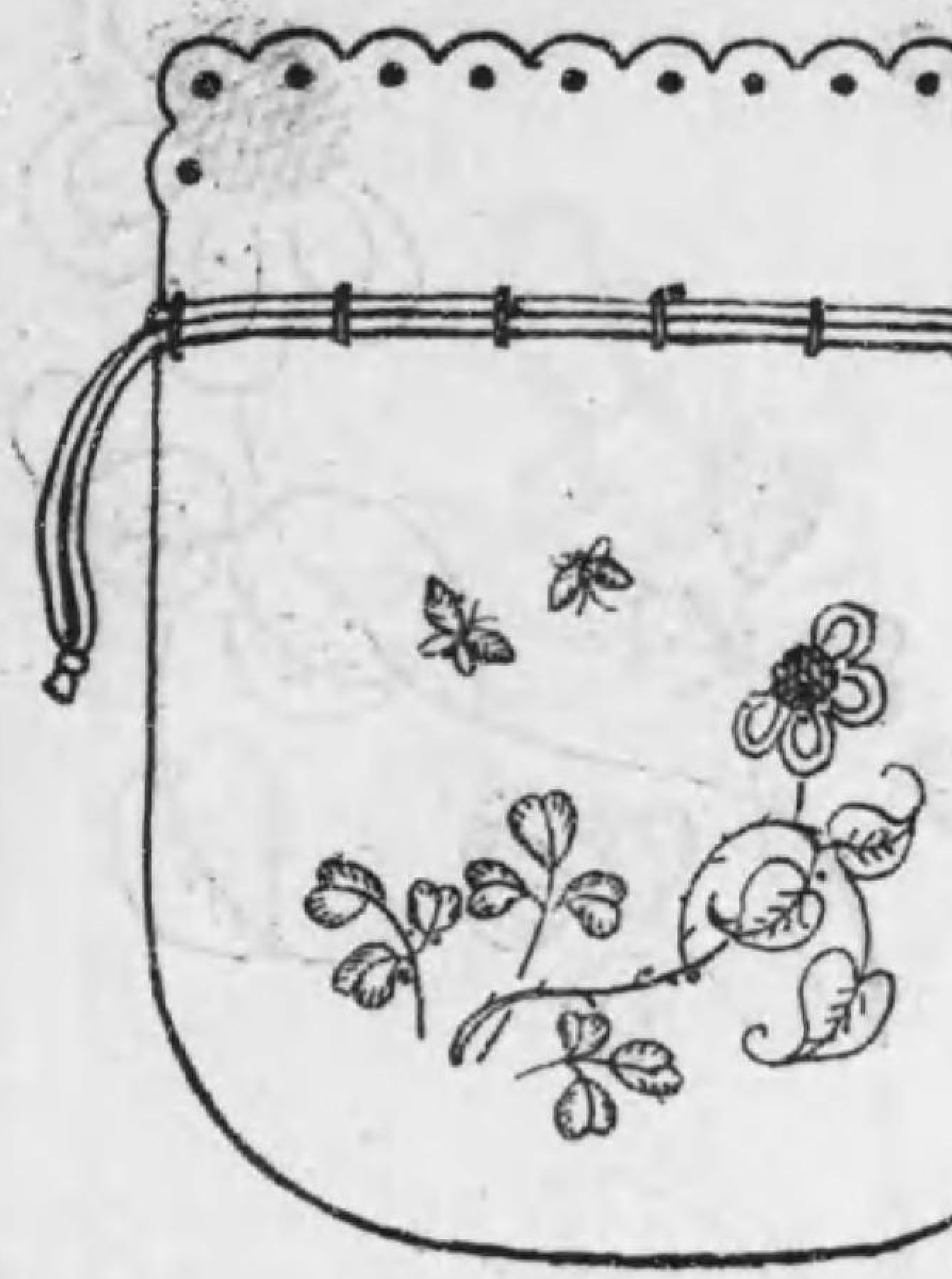
返し、(ホ)から(ヘ)に渡した糸を(ト)へ返し、(ト)から(チ)に渡り、(リ)に返り、これを順々に(ヌ)(ル)(ヲ)(ワ)(カ)と刺して仕上げます。細かいところ、糸のかけ方など圖について

御覧下さい。

この手さげは麻のやうな生地がよくうつります。そのほか有合せの丈夫な布に前の方法で型を寫します。

葉の糸のかけ方

手さげ出来上がり



花瓣は半返しを少し巾廣くして仕上げ、シンは前のやうにして縫ひます。中の段の葉も莖も半返しで仕上げます。下の段の葉は、スカラ縫のやうにして、中央から端にむけ針を抜きます。圖を參照なすつて下さい。

模様が縫えましたら、ヘリのスカラと玉を縫ひ、まわりを縫つて圖のやうな形に仕上げます。

應用の(五)帶メ

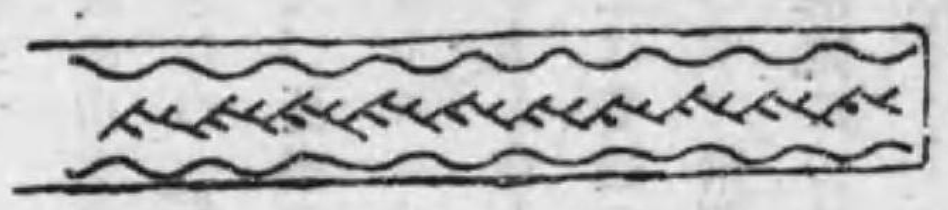
琥珀か何か丈夫な布に薄いシンを入れて、三分か四分の巾に、好みの長さだけ

絎けます。型はなしの方がきれいに仕上げられますが、見當がつかなかつたら、山の高いところと低いところに鉛筆でそつと點を打つて置きます。

山形の縫方はスカラ縫と同じで、圖のやうに糸を揃へますこれは細くて厚いので、いつものやうに指に卷いて縫ふのは骨が折れますから、絎臺に引つかけて縫ひます。中の四つ花はくさり縫にして、シンにはフレンチナツツを一つづゝ縫ひます。

一

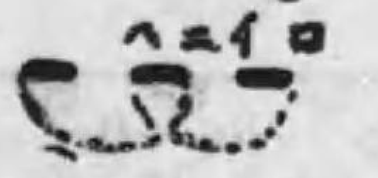
二



二の方もへりはやはりスカラ縫ですが、山形をなだらかにしたのですつとやさしく見えます。中はフエザーステツチ・夏でも冬でも、色のとり合せでいつでも用ゐられる上品なハイカラな帶メが出來ます。

應用の(六) 買物袋

シーズステッチ。日本刺繡のけし縫と同じです。(イ)の裏から表に針を出して、(ロ)に刺し、それを(ハ)に拔いて、(ニ)に刺し(ホ)にぬき、これをくりかへして縫ふのです、點線は布の裏にかゝつた糸を示して居ります。

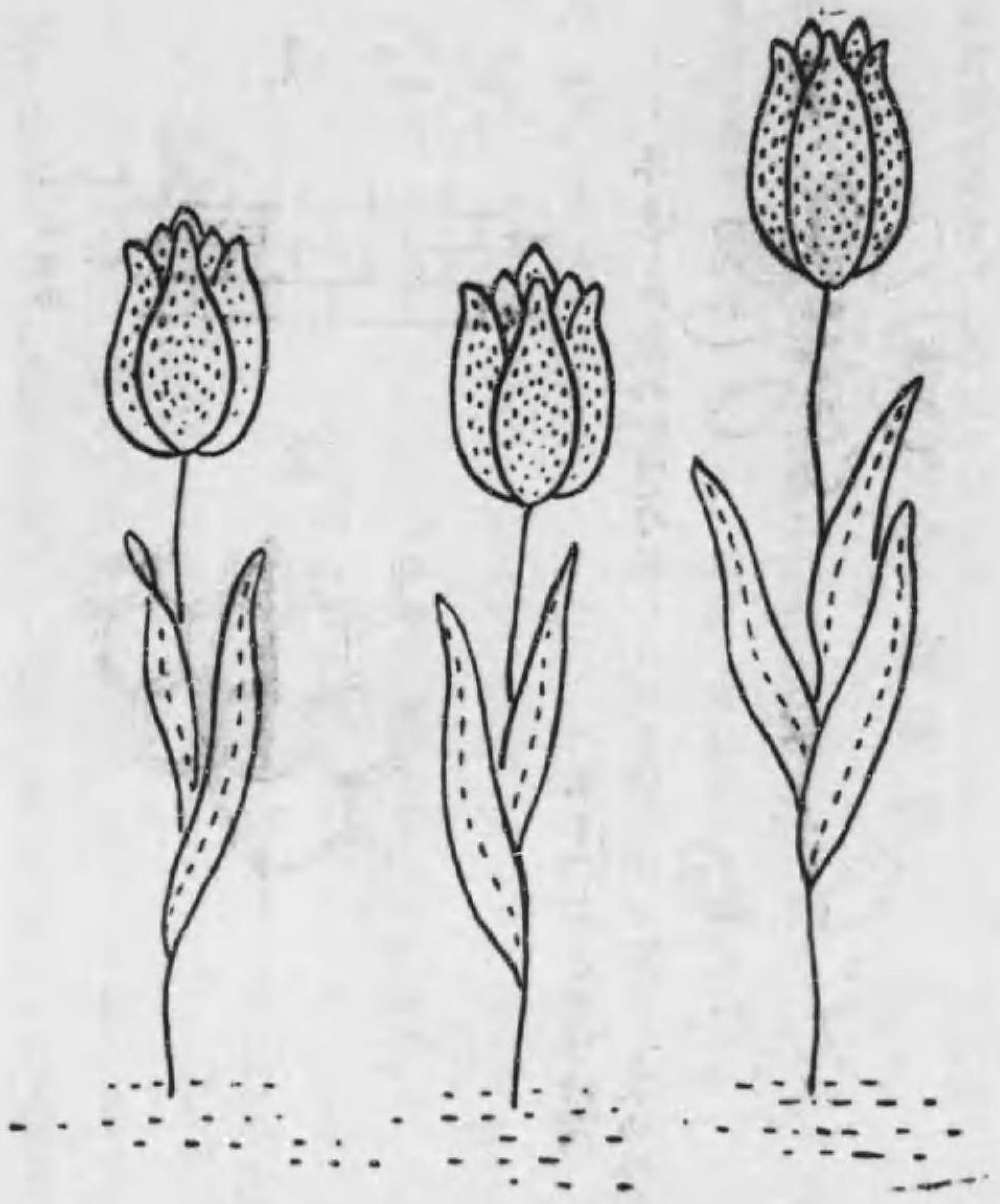


シーズステッチの糸の出し方

巾七寸、深さ六寸、底の巾七分に出來上がる布にこの圖案を描きます。生地は麻など、そのほかざらついた地の方が面白味があります。

先づ花瓣の輪廓を半返しで仕上げてから、圖のやうにまわりからぐる〳〵とシーズステッチをして、一つぱいに縫ひうづめます。莖も半返しですが、根の方を少し太く仕上げます。葉も半返し、中の筋はシーズステッチ。根本の土は普通の運針と同じで、針目をたがひちがひに揃へて五側ほど縫ひます裏側は花を一つだけ縫つて、兩側を縫ひ合せ、底を作つて、口を五分程折つてミシンをかけ五分巾に縫ひ上がつた手を兩側につけて出來上がります。

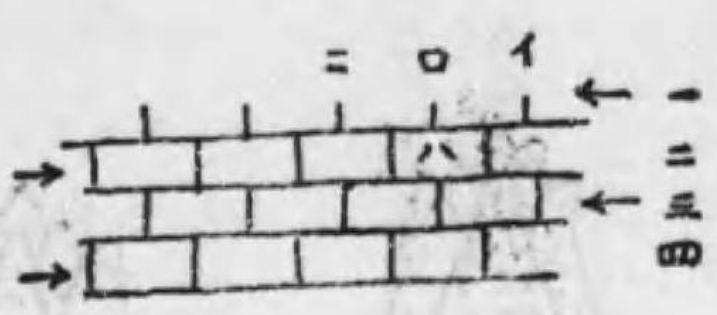
應用の(七)　鏡掛け



買物袋の圖案

きつから縫ひ、(1圖)(イ)のところに針を出して(ロ)のところで裏に出し(ハ)のところで出した針を、その糸に引かけて拔きますと、圖の樣になります。一例は矢の方向に進み、二例は反對に矢の示す通り後戻(あともど)りして來ます。これと同じ縫方で2圖は二列目を縫ふとき一列目の糸の眞中をすくつて、心持下に引つぱり

1



2

3

半返しの糸のかけ方

4

半返しとくさり縫の花のぬひ方

きつかう縫

ます。

かける鏡に合せて布地を用意します。下部中央のきつかう縫をして、そのまはりを半返しで仕上げます。花は3圖の様に糸をかけた、半返しの幅をひろげた縫方と、4圖のやうに、チェーンステッチを二つ重ねたまはりに、半返しをぐるりと縫つたのをたがいちが

いに縫ひます。シンはフレンチナッツで致します。莖も半返し、葉は應用四の花のシンの縫方と同じにして、下の曲線は半返しの糸をきれいに揃へて仕上げます。

かゞみかけ圖案

下の方の型がすつかり仕上がりましたら、中の型の玉だけをまき縫ひ、あとはみんな半返しで致します。上部の型は下の型と同じ縫方できつから縫から始めて、花まで縫ひ上げます。これでみんな縫ひ終へましたから、鏡にかゝるやうに上の方を少し折つて縫ひ、へりにレースなどをつけます。

應用の（八）　薔薇の圖案手提げ袋　（口繪寫眞）

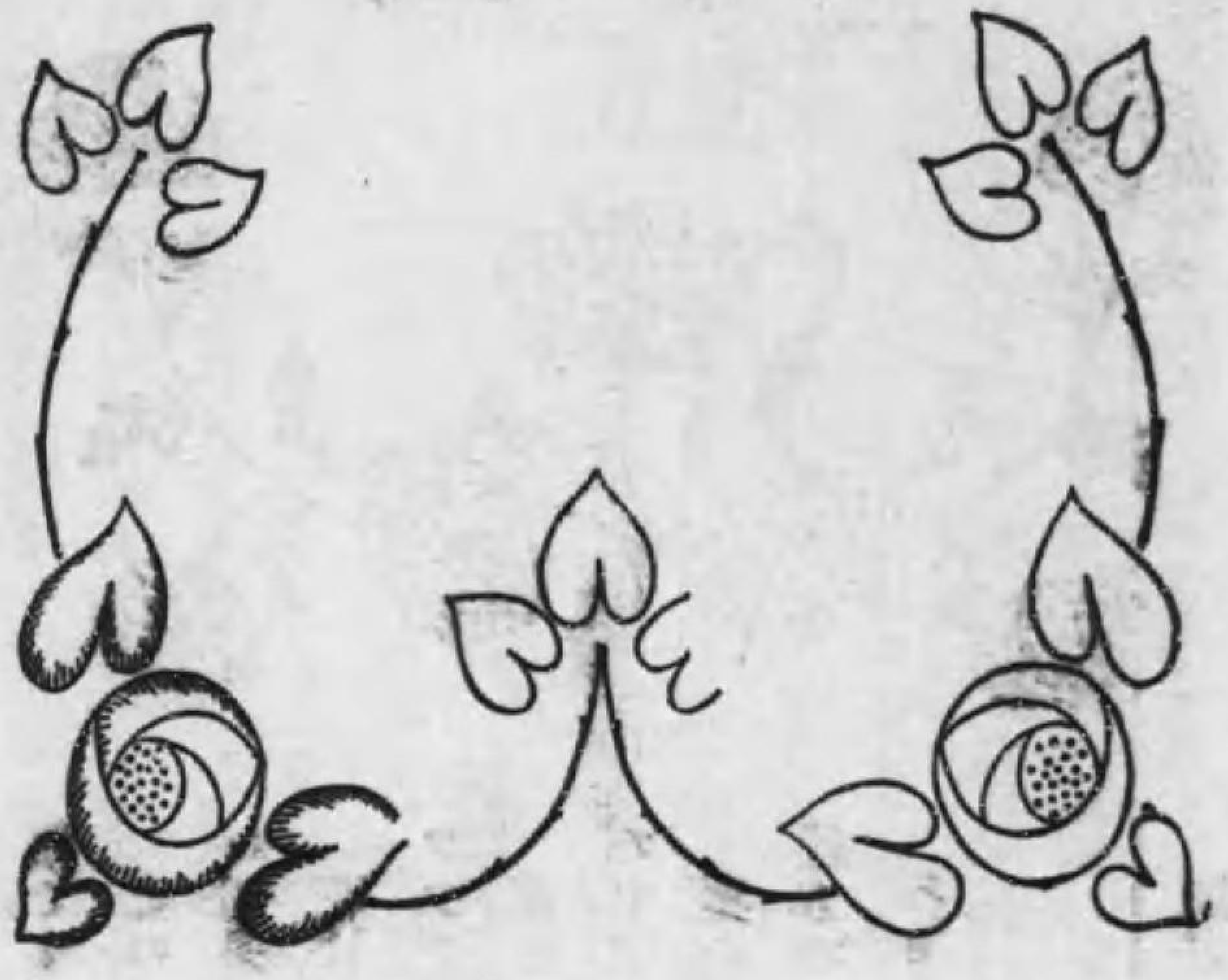
出來上がり圖は口繪の寫眞を御覧下さにませ。大きさは七八寸角に縫ひ上げて口には一組のゴムの輪をつけます。

刺繡の縫方はやはりやさしいアートステッチですが、色どりで大變美しく見えますから、それも申上げませう。

生地はポプリンでクリーム色です。糸は絹糸を使ひました。

花の色はローズ色で、縫方は、四の手提げ下の段の縫方と同じです。スカラ縫を中央から外に向けて縫つたもの。

薔薇の繡案



芯の色は眞赤にしました。縫方は大きめのフレンチナッツです。

葉の色は、濃い綠、薄い綠、鼠色をとり合せよくまぜます。縫方は花と同じスカラ縫です。

莖は鼠色で半返しで仕上げます、裏の方にも同じ圖案の花一つ葉三つのものを眞中に入れます。

作り方は、兩脇から下を縫ひ合せ、裏をつけた、口にゴムの輪をつけます。房はターティグで作つてあります。

應用の（九）　學校行手提げ　（口繪寫眞）

大きく縫つて、女學生の學校行き手さげに使ひます。手さげとはかぎらず何にでも應用される圖

案です。

この生地もくすんだ海老茶色のポプリンです。糸は少し太い絹糸。

花はローズの濃いのと淡いのとで縫つて、全部フレンチナッツです。

莖は綠色、あまり濃くない方がうつります。縫方は半返しです。

葉の色は、莖と同系統の少し濃い色、縫方は基本縫(二)の縫方です。

作り方は買物袋と同じです。

クロースステッチ

縫方圖を見たゞけでもお分りになりませう。四角く目を拾

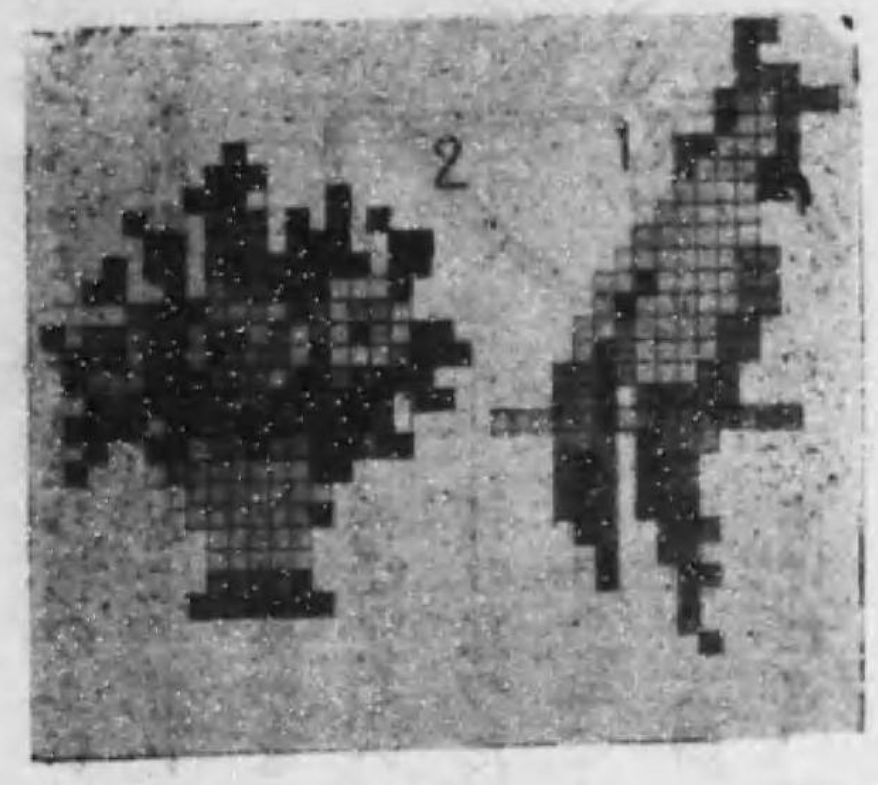
つて、斜十文字に糸をかけるきりの、ほんとに簡單な方法です。このクロースステッチはほかの縫方に交ぜて、どこにも使ひ道の多いステッチですけれど、こればつかりで縫つても、なかなか面白いものが出來ます。縫方は、斜十文字にかけて行くだけでむづかしい規則はございません。

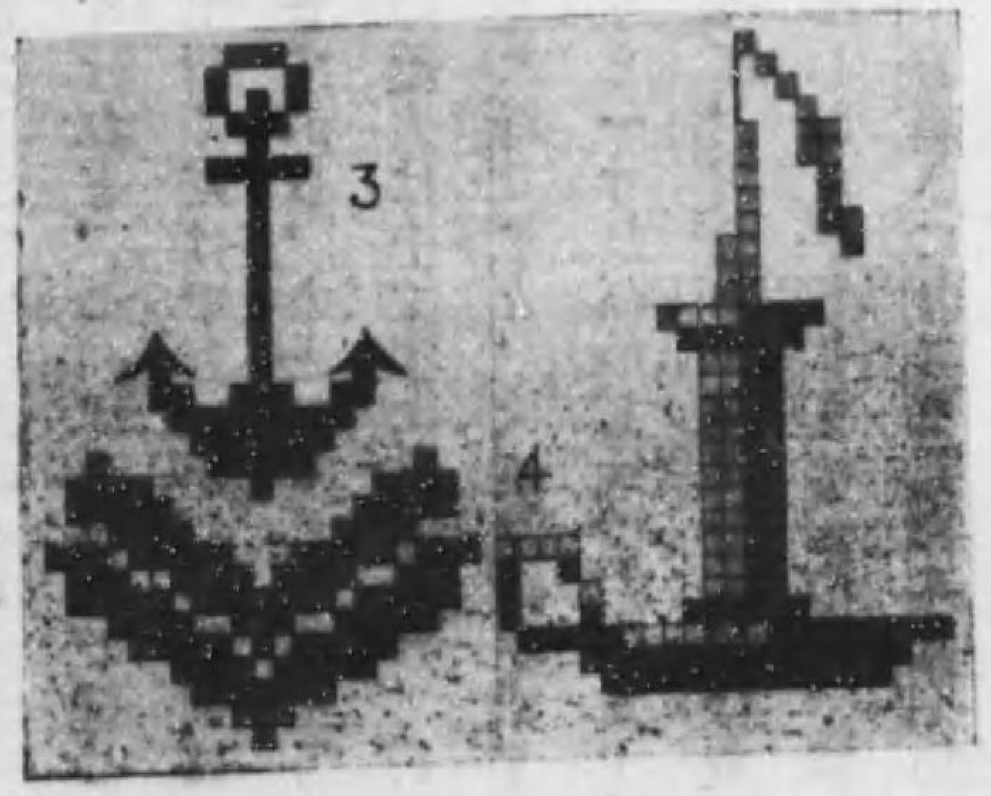
たゞ裏がきたなくなりますから、あと戻りしないやうに氣をつけて縫へば宜しいのです。この縫方は十文字に糸をかけて行くので、四角に目の立つた斜子織のやうな地ですと、大さう縫ひやすいのですが、普通の生地ではなれないうち一寸むづかしうございます。熟練いたしますと、大體の型さへ置けば、どういふ生地でも目分量で四角に縫へますけれど、不熟のうちはしかたがありませんから、縦の筋だけ鉛筆でしるしをつけて置いて、お縫ひになりましたら宜しいでせう。

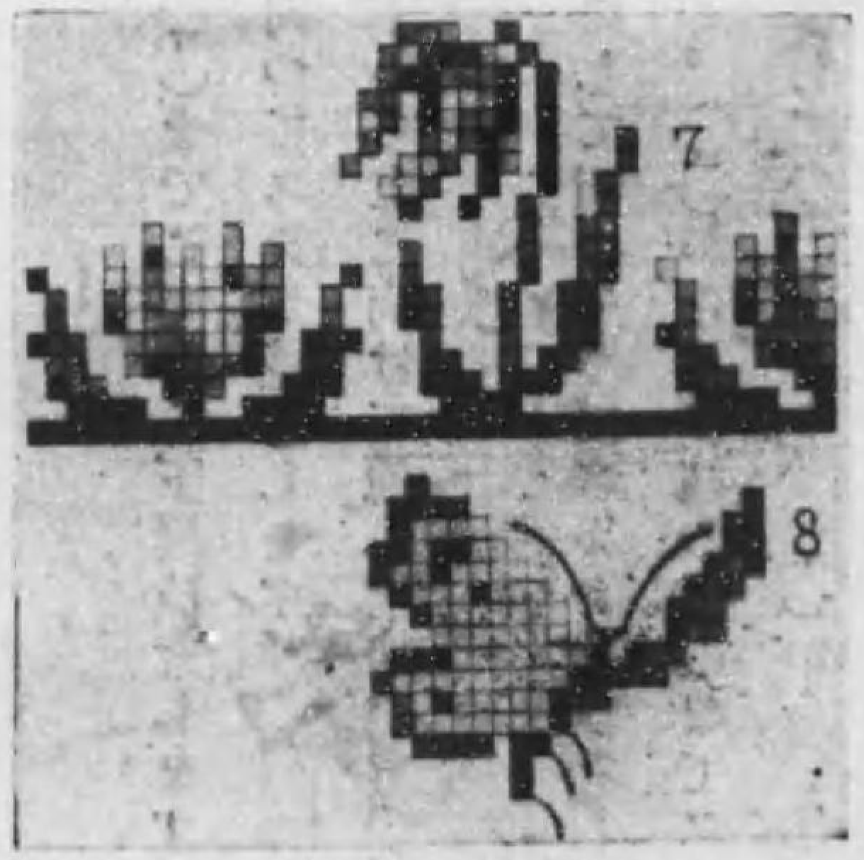
縫ふときは圖案をわきに置いて、數を合せながら縫つて行きます。クロースステッチの縫方はこんなにたやすいのですけれど、圖案と色どりによつて引立つので、ことにも圖案や色どりに注意しなければなりません。

應用は何にでも出來宜ます。フランス刺繍のほかの縫方にまぜても、クロースステツチだけでもしいのです。クツション。カバーるい。アルバムの表紙にも。又ピアノかけ、テーブルかけ、窓かけにも川ゐます。

クロースステツチの圖案







カツトウオーク

初歩のベビースステツチの稽古がすみましたから、いよ〳〵本式のフランス刺繍の縫方を説明いたしませう。

カツトウオークといふのは、切り抜きの仕事で、卷縫ひのカツトと、スカラ縫ひのカツトとありまして、何れも窓かけ、テーブルクロースなど、廣い場所を切り抜くのに宜しうございます。

スカラ縫カツトウオーク

いろ〳〵の模様の隅がよくかういふ形になるので、舟のやうな形の切り抜きに就いてお話いたします。

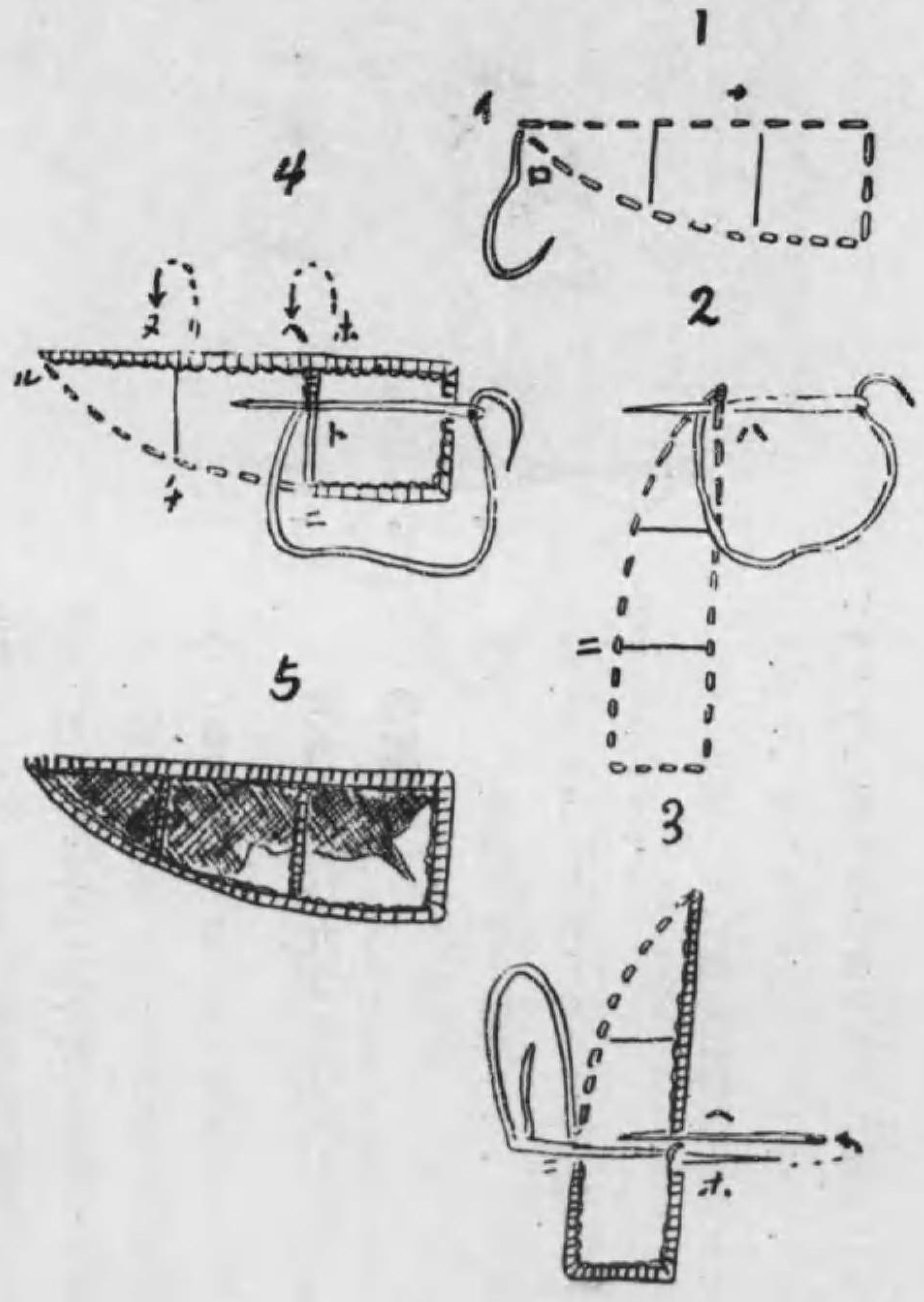
(1)(イ)の印のところから矢の方向に從つて、(ロ)までこまかく下縫ひをします。

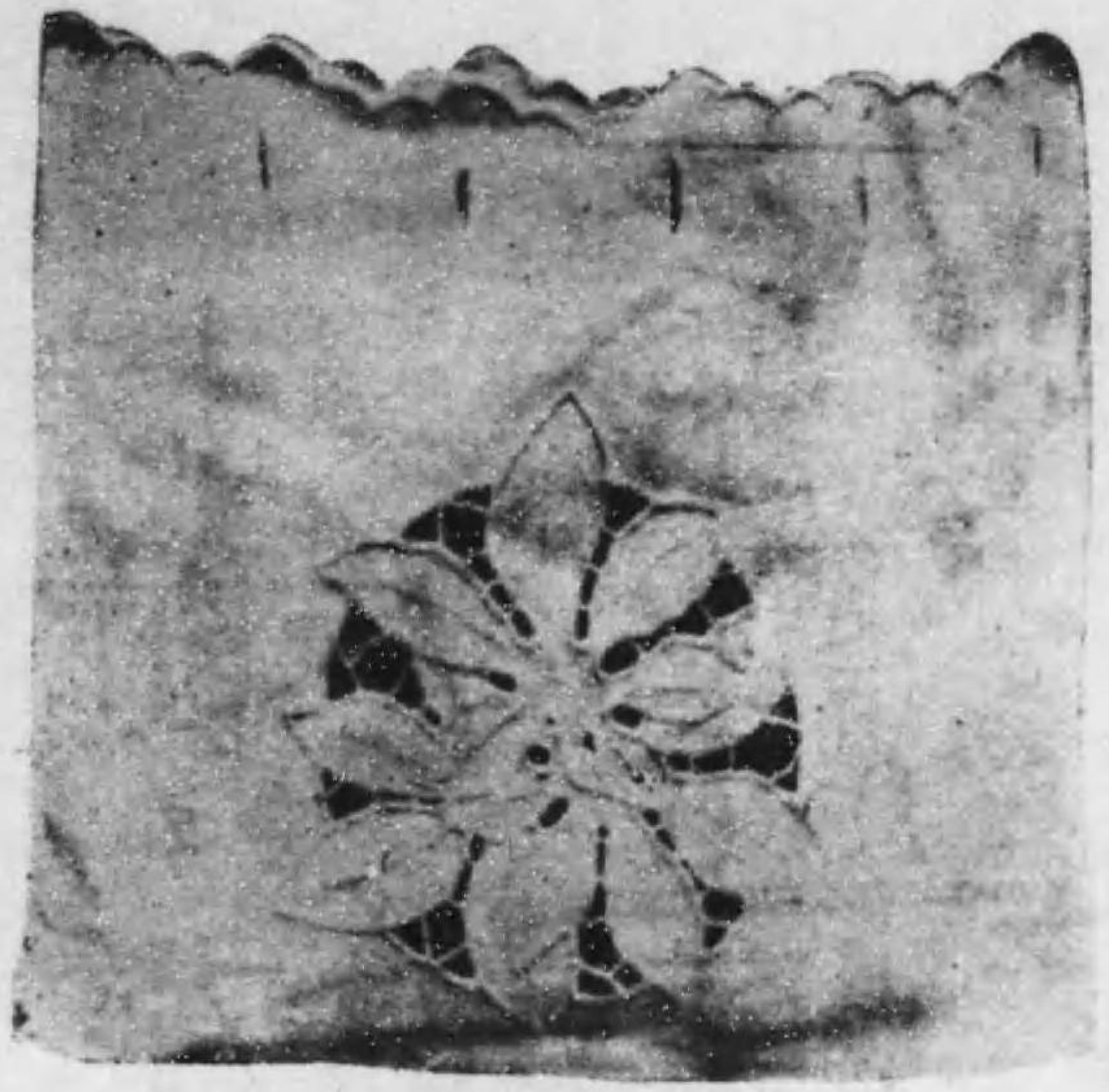
(2)その絲をつゞけて(ハ)から(ニ)まで内側に向つてスカラ縫をします。

(3)(ニ)から(ホ)に向つて、針先を圖のやうに下から上に向けて通し、すぐと(ヘ)に針先を上から下に向けて通します。

(4)(ヘ)から(ニ)に向つて、今渡した絲をシンにして圖のやうにスカラ縫ひをします。(ニ)から(ホ)に渡るときは下の布をすくつてはなりません。(ニ)から次の柱の(チ)までスカラ縫をして來て、前の方法で(リ)に渡し、その柱をスカラ縫ひして(チ)に戻り、(チ)から(ル)までスカラ縫

スカラ縫カツトウオークの縫方





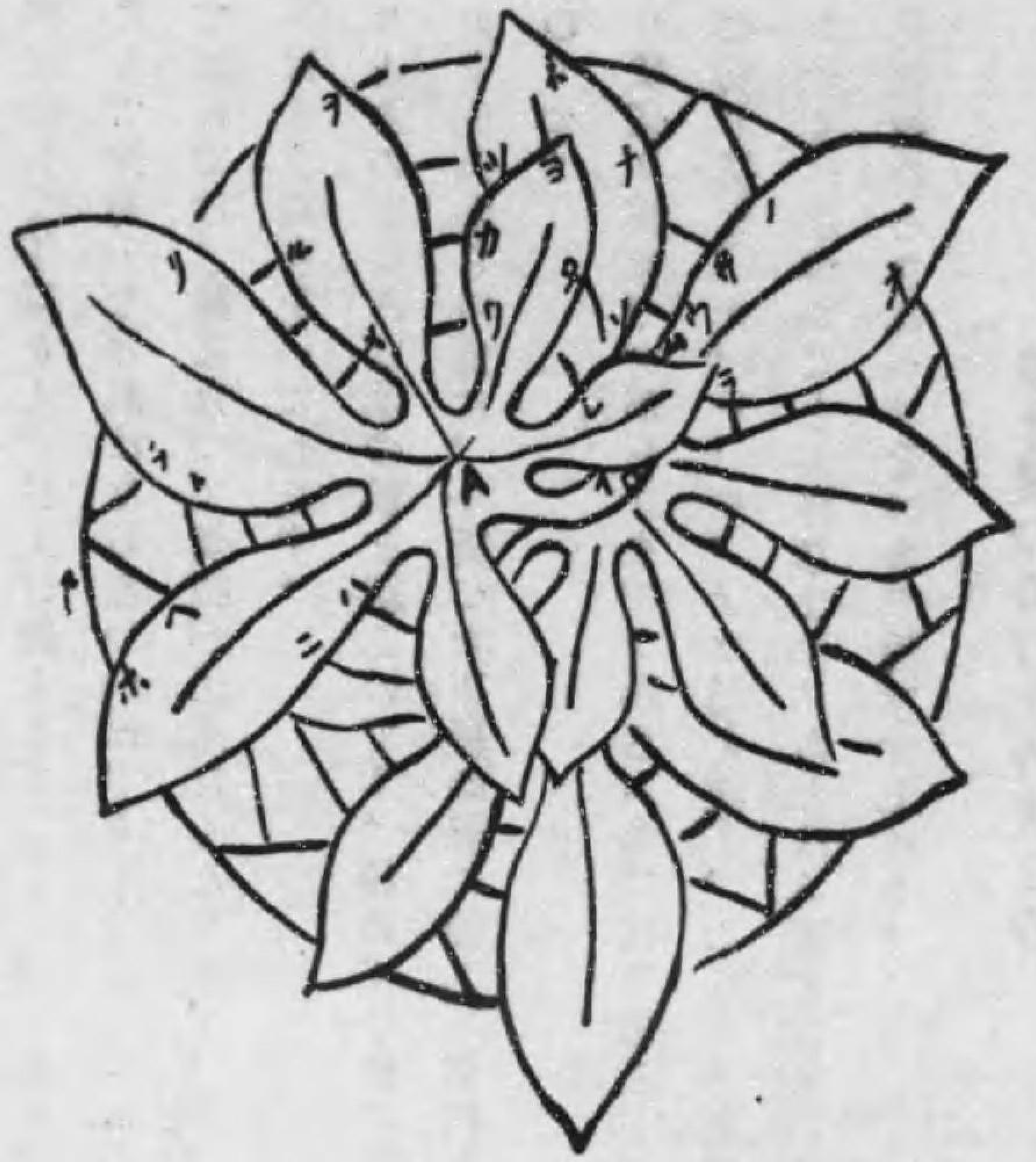
手さげ

を續け、その絲を裏に引出し、絲の下を潜して止めて仕上げます。仕上げてからスカラの中の布を、柱を切らないやうに注意して切り抜きます(5)は仕上げてから布を切り拔くところです

スカラ縫ひカツトウオークの應用

何にでも應用できる圖案です。花瓶敷などにも宜いでせう。寫眞のやうに手提げにしても面白うございます。

カツトウオークの縫方は縫ひ上がりを見て思つたより、ずつとたやすいのですが、よじれないやうに、逆にならないやうに續けて行くのが



縫方順序

面倒です。この圖案でそのつゞけ方を呑こみますと、あとはさう骨を折らずにお縫ひになりませう。

はじめ(イ)のところから下縫をはじめ、(右から左に進む)Aの葉の輪廓だけ縫つて、(ロ)まで來ましたら持ち代へて仕上げ縫をはじめます。仕上げ縫は下縫と反對に左から右に進んで、切り拔く方に針を拔きます。(ハ)、(ニ)で絲を渡し・絲を渡す向ふ側は本縫が出來てゐないと渡せません。仕上げ縫をして(ホ)まで來ましたら、矢の

方向に從つて下縫をし、仕上げ縫をして（ホ）に還ります。

こゝで注意しなければならないのは、もし今（ホ）のところで縫ふのを忘れますと、次の葉に行つてからでは、逆になつて切抜が出來なくなります。ト、チ、ヌ、ル、ワ、カ、は絲を渡し、リとヲはきりぬきをいたします。

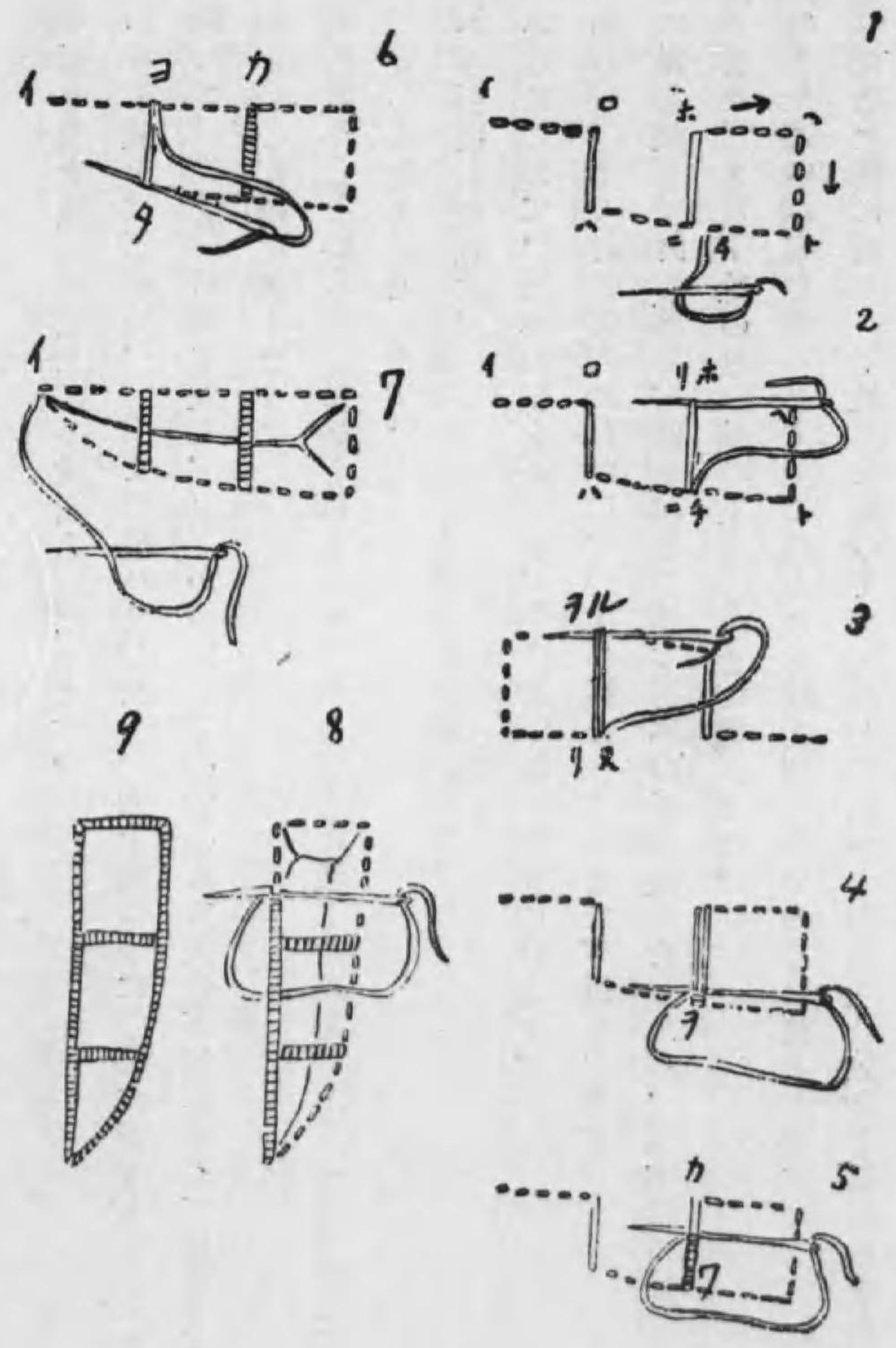
ヨとタのところは葉の筋を縫ふのです。極めて小針に下縫をし、最後の針を下から上に抜き、それを向ふから手前に、今縫つた下縫の絲に通し（切れを縫はないで）元のところまで還つて來るのです。

レは切り抜き、ソからツまでラからムまでは下縫をして行き、仕上げ縫をしながら還る。ネとヲは切り抜き、ナ、ウ、ヰ、ノは絲を渡す、これでA葉だけ縫ひ終りました。つゞけ方もたいがいお分りになつたことゝ存じます。あとはA葉を参考して工夫して下さい。

巻き縫ひカツトウオーク

花瓶敷のときはヘリをスカラ縫で仕上げます。

まき縫カツトウオークの縫方



前と同じ舟形を巻き縫ひで仕上げる説明をいたします。

(1)(イ)から下縫をはじめて、(ロ)まで縫ひましたら、布を縫はずに(ニ)に絲を渡し、(ハ)から(ニ)まで縫つて、又(ホ)に絲を渡し、(ホ)から(ヘ)(ト)(チ)まで矢の方向に従つて縫ひます。

(2)(チ)から(リ)に絲を渡します。

(3)布を持ち代へ(ヌ)から(ル)に絲を渡し(チ)から(リ)に渡した絲を、もう一度(チ)に還したわけです)(ヲ)に針先を出します。

(4)(ヲ)から引出した絲を、

(5)(ワ)からはじめて、三本の絲をシンに、(カ)まで固くまきつけます。

(6)(カ)から(ヨ)まで針の方向にむかつて、次の柱のところまで下縫ひします。

次は(タ)に絲を渡して針を刺し、前と同じ方法で三本の絲が渡りましたら、四本目の絲で三本のシンを固くまき、まだ下縫のない線の上を(イ)まで縫ひます。

(7) 圖のやうに中の布を切ります。このときも柱を切らないやうに注意します。

(8) 切つた布を後に折り・下縫したものをシンにして左から右に巻き縫をしながらまわつて

これを仕上げます。

(9) 出來上がりです。

巻き縫のカツトと、スカラ縫のカツトと違ふところは、巻き縫カツトウオークは先きに、中の渡るところを仕上げて、あとからまわりをしますが、スカラ縫カツトの方は、渡るその向ふ側が必づ仕上がつて居なければ出來ないことです。

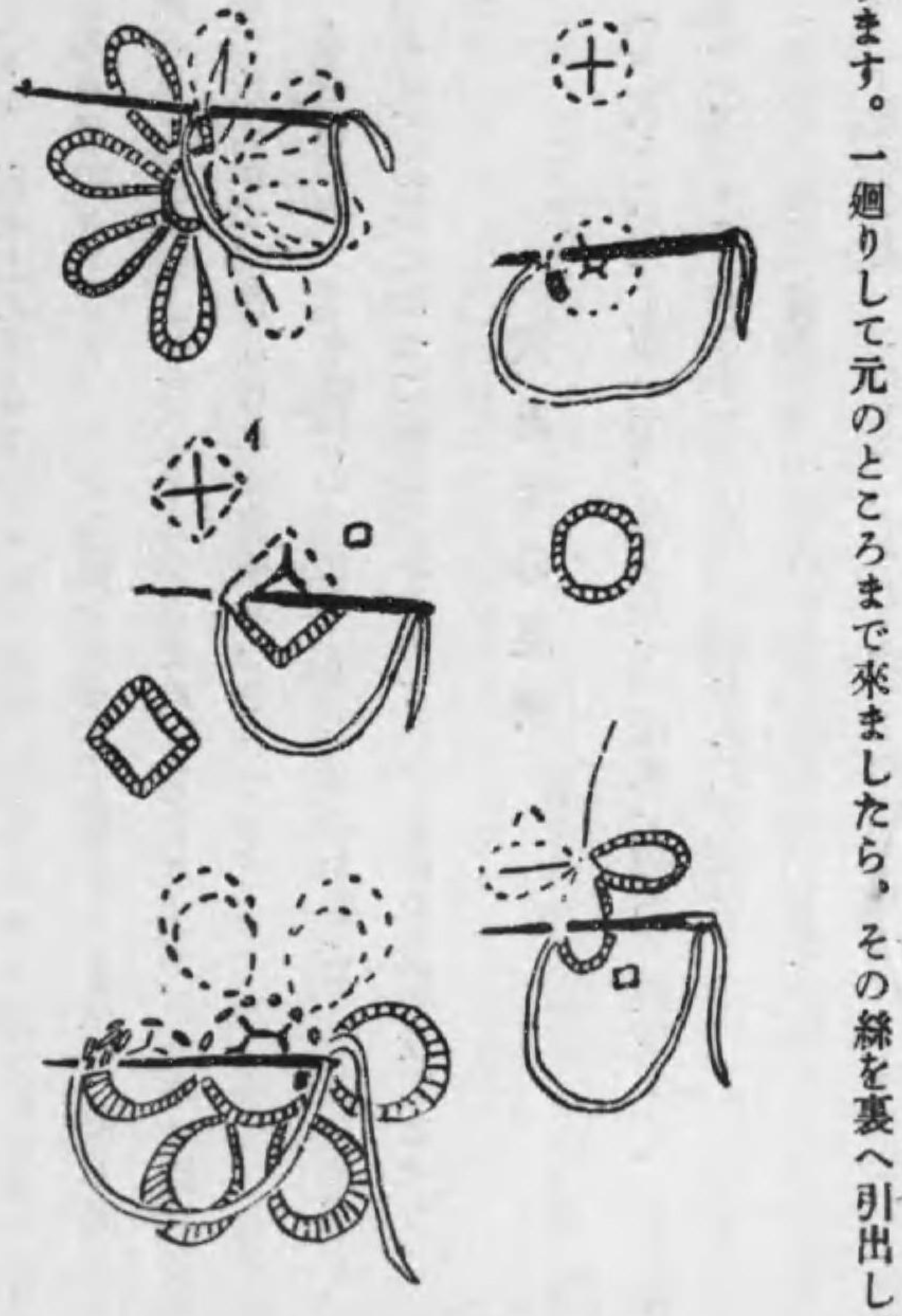
巻縫ひのカツトを應用していろ〳〵なものを縫はうと思ひますと、どうしてもほかの穴あきや肉あげが必要になつて來ますからつゞいてそれを説明致しませう。

穴あきの説明

(1)小さい丸を書いて、はじめその輪廓を細かく縫ひます。これは下縫です。その絲を切らずに置いて、その輪の中を十文字に鋏を入れます。

(2)その切れを裏の方へ折込むやうにして、下縫からつゞいて居る絲で、左から右に廻りながら、下縫の絲をシンにして、その上を丁寧に巻きつけてゆきます。これは巻縫ひで仕上げ縫にな

ります。一廻りして元のところまで來ましたら。その絲を裏へ引出して、今まきつけて來た絲の



穴あきの縫方（ノよりクまで）

下を一分ばかりくゞらして絲を切ります

フランス刺繡をするためには、始めにも終りにも絲に結び玉をつくりません。仕上げてから裏表が少しもないやうにしますので、これもついでに申添えて置きます。

（3）出來上がりです。穴あきの縫方はこれで宜しいのですが、花などを縫ふときのつゞけ方、

四角い縫方などを次に説明いたします。

（4）圖のやうに三つ葉にしますのは、はじめ莖の下縫を葉の方に向つて細かく縫ひます。次に（イ）の葉の下縫をして、その中にたてに鋏を入れ、裏に折込むやうにし乍ら左から右に卷き縫をして、（イ）の葉を仕上げます。次にその絲をつゞけて（ロ）の葉の下縫ひをし、前と同じにそれを仕上げ、（ハ）の葉に移つてそれを終りましたら、その絲を切らずに最初縫つた莖の下縫ひの絲の上を、右から左へ針を拔いて、すつかり卷いて仕上げます。

（5）縫ひ始めは花の形をしたもの丶眞中の輪からはじめます。その輪の下縫ひを細かくして一廻りしましたら、その中に鋏を入れ、その下縫ひの絲の出てゐるところから一番近い花片の付根のところまで卷き縫ひをします。次にその花びらの輪廓を細かく下縫をして、その中にたてに長く鋏を入れます。それからその絲で花びらを卷縫ひして仕上げ、次に眞中の輪を次の花びらの付根のところまで卷縫をして、その絲で二番目の花びらの下縫ひと上縫をつゞけて又次の花びらのところまで眞中の輪の仕上げ縫ひを致します。これをくりかへして行けば全部仕上がります。

（6）これは四角い穴あきで、縫方も、その順序も（1）の説明と同じですが、穴が丸くなりやす

いので、それを注意してハッキリ四角くあけるやうに縫はなければなりません。最初下縫ひを細かく四角に縫ひ、次に圖のやうに十文字にハサミを入れて、その布を裏へ折込んで仕上げ縫をしますと四角な穴があきます。

（7）シンの這入つて居る穴あきです。やはり花の中央の丸から始めます。丸の輪廓を下縫して中の布を切り、卷縫で仕上げをしながら、最初の花びらのつけねまで來たら、その絲で花びらの下縫ひをします。この花びらの下縫は、輪廓のそとがわを、花片のたけ半分より少し先まで縫つて行き、今度その內側を少し手前まで針目を揃へずに縫ひ戻り、そこで針を引出し、又その內側を縫つて向ふに行きます、かうしますと、この花びらの太い部分は三本の下縫ひのシン（これは次に申上げる肉あげのシンと同じものです）が這入つて、兩側は一本のシンが這入つたわけです。シンを入れ終りましたら、中の切れを十文字に切つて後に折り、下縫をシンにして奇麗に卷き縫をします。花のつゝけ方は（5）の說明と同じです。

絲のつなぎ方

新しい絲をつぐときは、その止めた絲よりも少し先から、その止めた絲のところまで戻り、（つまり下縫が二重になります）それから前と同じやうに仕上げ縫をつゞければよいのです。おしまひの絲の止め方は前に申上げました。

肉あげ

（1）この丸いところへ肉を入れますのは、始め輪の周圍を細かく縫つて、次にその絲で針目を少し粗くして、たてに一杯（イ）圖のやうにシンを入れます。シンが這入りましたら絲をつゞけて仕上げ縫をします。仕上げ縫は針先を輪の左下の方ィのあたりから引出して、次にその右ロのところへ針を刺し、順々に上に卷き上げて仕上げます。この縫方は大きい輪のときで、もし小さい輪のときは片隅の方から、丁度上縫をすると同じに下縫のシンをたてに入れ、次に前の上縫ひと同じに横に絲をまきつけて仕上げます。

シンの絲はいつでも上縫ひと反對に入れます。

シンの絲の入れ方は表には針目を大きく出し、裏には極くわづかな針目しか出しません。そし

て針目はたがひちがひになつて揃はないやうにします。

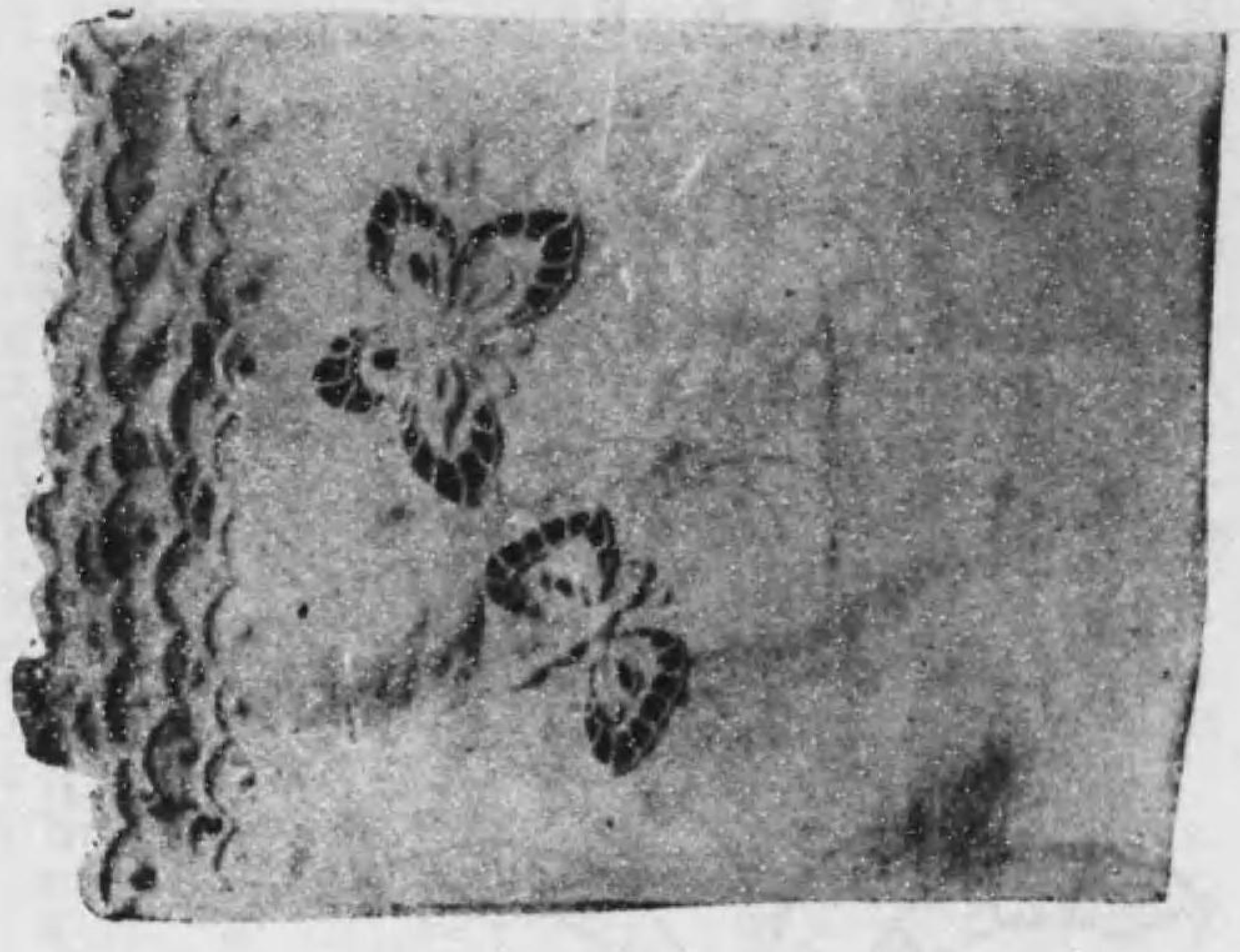
線縫

すべて細い線の上を巻き縫で仕上げますのを線縫と申します。縫方は下縫を細かくして、その上を、右から左へ針を刺すやうにして、下縫の線をすつかり巻いて行きます。これは幅のある芯の上を巻くよりずつとむづかしうございます。

應用（一）　まくらカバー

寫眞はまくらカバーに縫つてありますが、やはり何にでも應用できる圖案です。

巻縫カツトで仕上げた羽根の縫方は、改めて説明いたしませんでもお判りのことゝ存じます。蝶の胴は肉あげにしてあるのでその縫端の細くなるところは舟形でお稽古したときと同じです。



まくらカバー

方を申上げませう。

（1）　始め尾の長い圓の輪廓を縫つてシンを入れ、次に尾のところから出て居る細い線の下縫ひにつゞけます。下縫が出來ましたら、それを線縫で仕上げながら胴に向つてすゝみ、つゞいてその胴を巻き縫ひで仕上げます。次に眞中の胴を仕上げ、次に頭のシンを入れて、そこからつゞけて左の觸角の線を先まで下縫をし、それを線縫で戻りとなりの觸角もその通り仕上げまして、眼はフレンチナツツを二つ縫ひ、次に頭の上縫をして仕上げます。

このスカラ縫ひもシンをたつぷり入れて、細いところ太いところをハツキリ仕上げて、手縫ひで

蝶の胴の縫方

なければ出來ない肝心なところを表すやうに注意します。シンの入れ方は、

（2）一番內側の線だけごく細かく縫つてあとの引返すところは針目を大きく、針目の揃はないやうにします。右の方から始めて內側の線を先に縫ひ、太い處は幾度も引返して、裏に小さく表に大きく針目を出して縫ひます。

幅のあるところにシンを入れますのには、シンとなる絲と絲の間から布

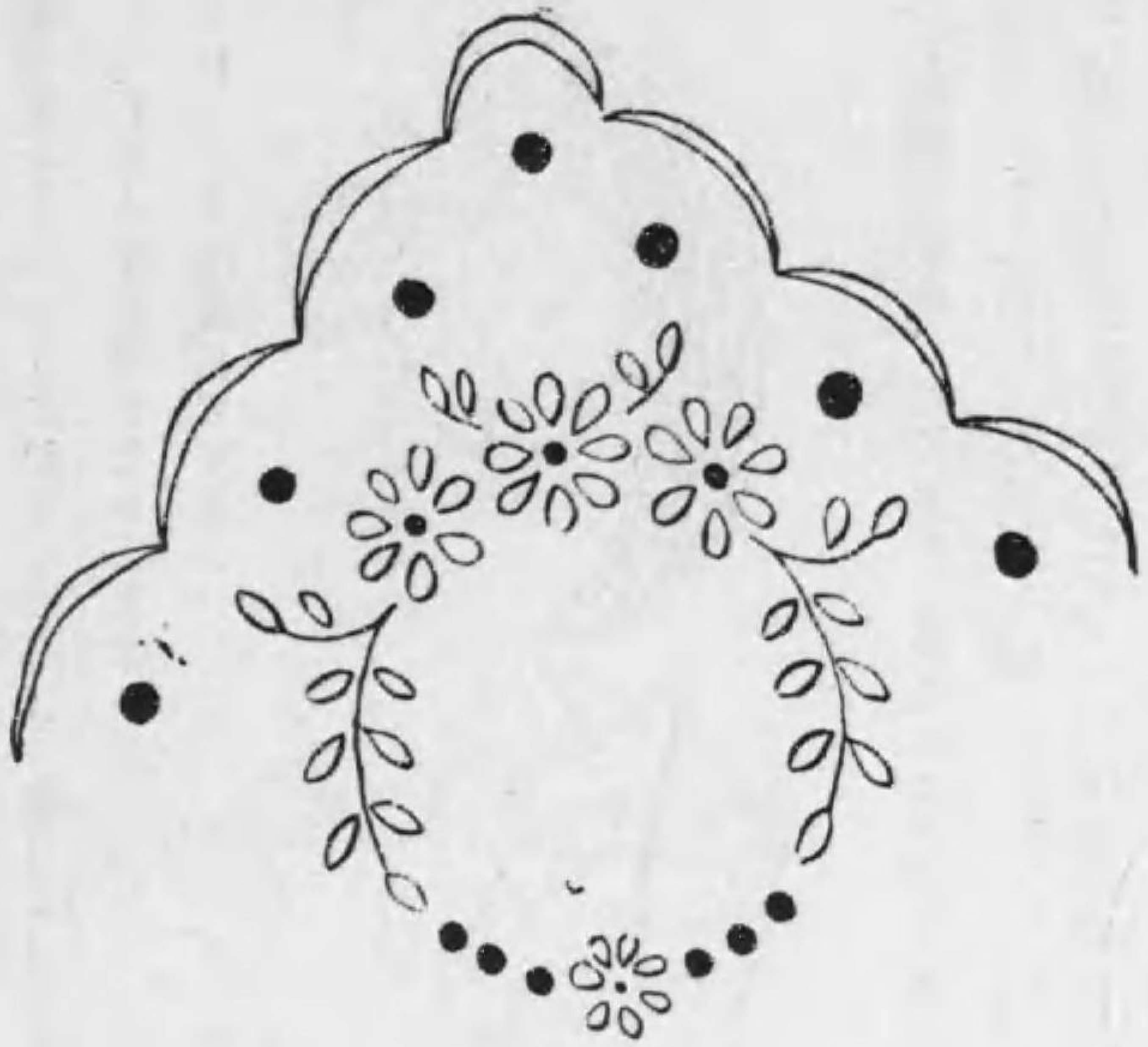
地の見えないやうに絲をくつつけて縫はなければなりません。

それから手の慣れないうちはシンを入れるときに生地がつれますから、平にシンの這入るやうくれぐ〵も注意して下さい。

芯の入れ方

應用（二）ハンケチ

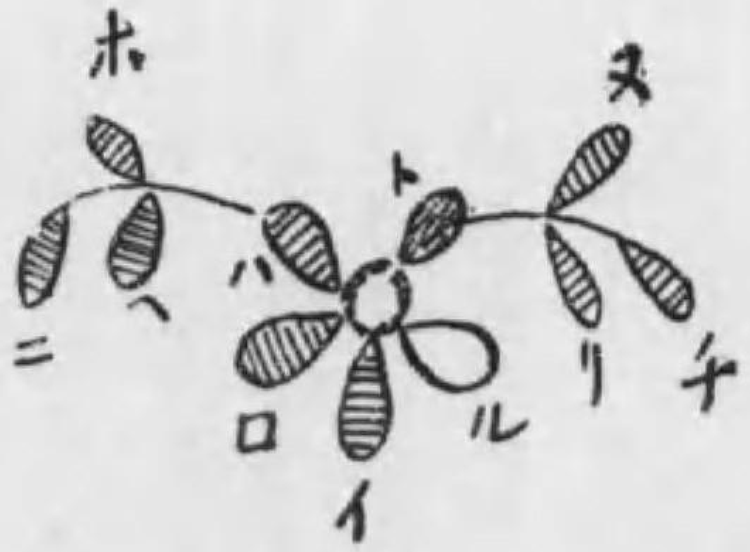
花から縫ひはじめます。(1)中心から先に縫つて、(ル)の花片のつけねあたりから、眞中の輪の下縫をして中にハサミを入れ、それを(イ)の花びらの附根まで卷いて來て、(イ)の花片の輪廓を細かく縫ひ、その中のシンは粗く縱に、表に大きく裏に小さく針目を出して入れます。次にその絲を花びらの頭の左の方から針を引出して右に刺し、順々に中心に向つて卷き縫をし、その花びらが出來上つたら次の花びらまで中の穴を卷縫します。(ロ)の花びらも(イ)と同じに仕上げて中の穴を卷き、(ハ)の花片



ハンケチ圖案

(2)

(1)



に移つてそれにシンを入れましたら、その絲で花びらの先に出で居る葉の莖を、(ニ)の葉のつけ根まで細かく下縫ひします。葉の縫方は花と同じで、先に輪廓を縫ひその中にたてにシンを入れて、葉の先から莖の方に向つて卷縫をして、(ホ)の葉、(ヘ)の葉を仕上げ、(ハ)の花びらの頭の處まで來ましたら、その花びらを仕上げて中の輪を卷き、(ト)の花片のシンを入れて、前と同じやうに順々に(チ)(リ)(ヌ)の葉を仕上げ、(ト)の花びらの仕上げ縫をして次に(ル)の花びらを縫つて全部仕上げます。かうしますと花の中心には穴があき、花と小さな葉はフックリと浮き出します。その上の葉と花もこのやうに縫つて、並んで居る穴は(2)の説明のやうに、一番左の端の輪の次の輪と相接したところから下縫を始めます。下縫が出來ましたら十文字にハサミを入れ、仕上げ縫を左から右に廻つて縫ひます。次にその絲で二番目の輪の下縫をして、その仕上げ縫を三番目の輪に接するところまで縫ひましたら、三番目の輪に移りそれを全部仕上げてその絲でまだ仕上げ縫の出來て居ない部分を仕上げ、二番目の輪の内側で終ります。

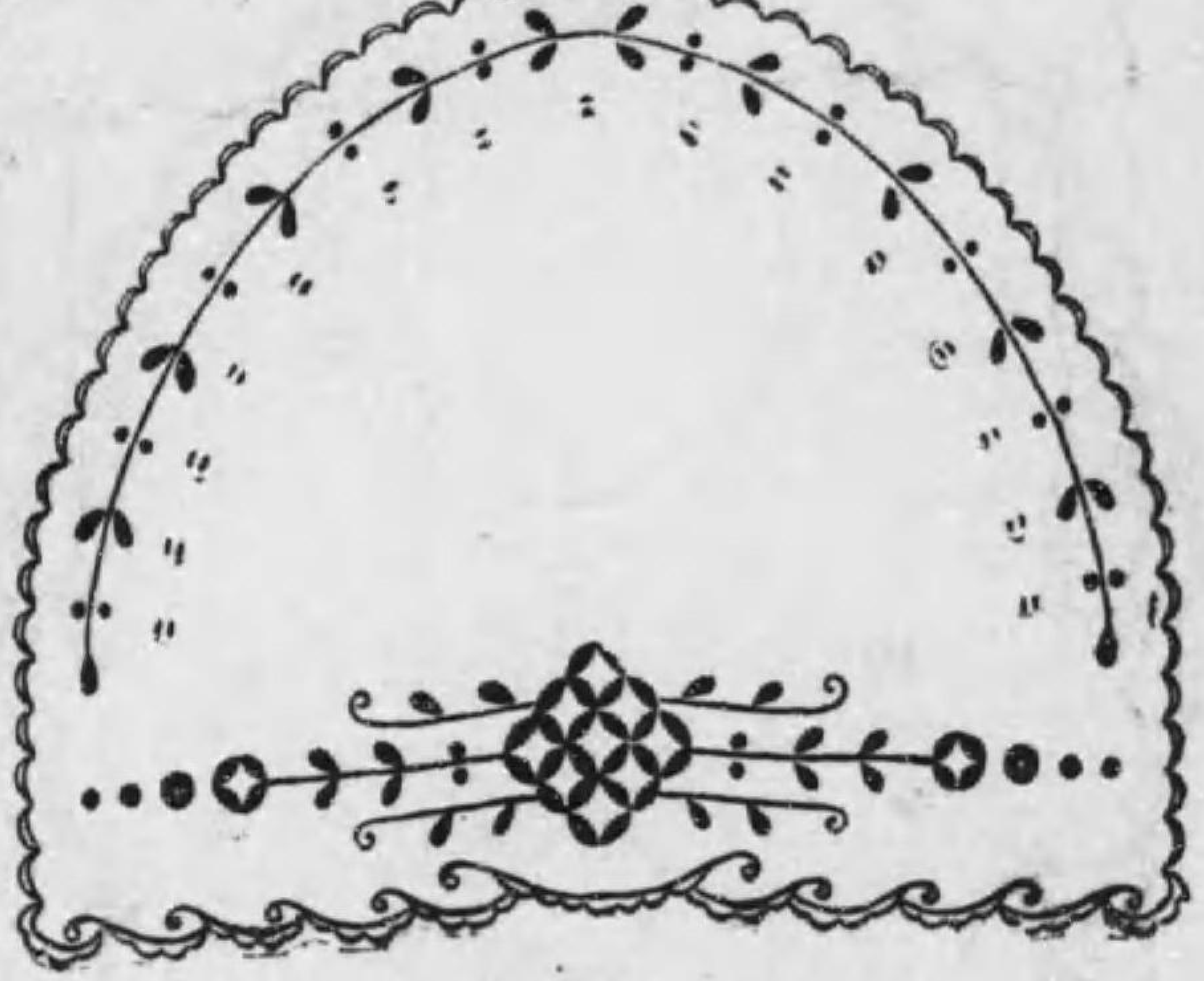
この縫方は穴あきをたくさんつゞけて縫ふとき、早く縫へて綺麗に仕上がる縫方です。

スカラ縫は形が變るだけで縫方は同じです。へりにならんで居る玉は、肉あげでも穴あきでもよいのですが、中の模樣の玉と同じ縫方の方が釣合がよいと思ひます。生地はリンネルで眞白に縫を入れたのが最も適當ですが、羽二重のやうな絹物には絹絲、普通の木綿ものには絹小町、又は薄色の刺繡糸で繡ふのも綺麗です、麻、木綿類にした刺繡の仕上げが手垢で汚れましたら、すぐ洗濯して地の薄いものには薄く糊をして、軟いものゝ上に擴げ、裏の方から火熨をかけますと、裏が平たくなり表にふつくりと盛れ上つて氣持よくなります。絲は模樣の細かいもの程細いのを使ひます。

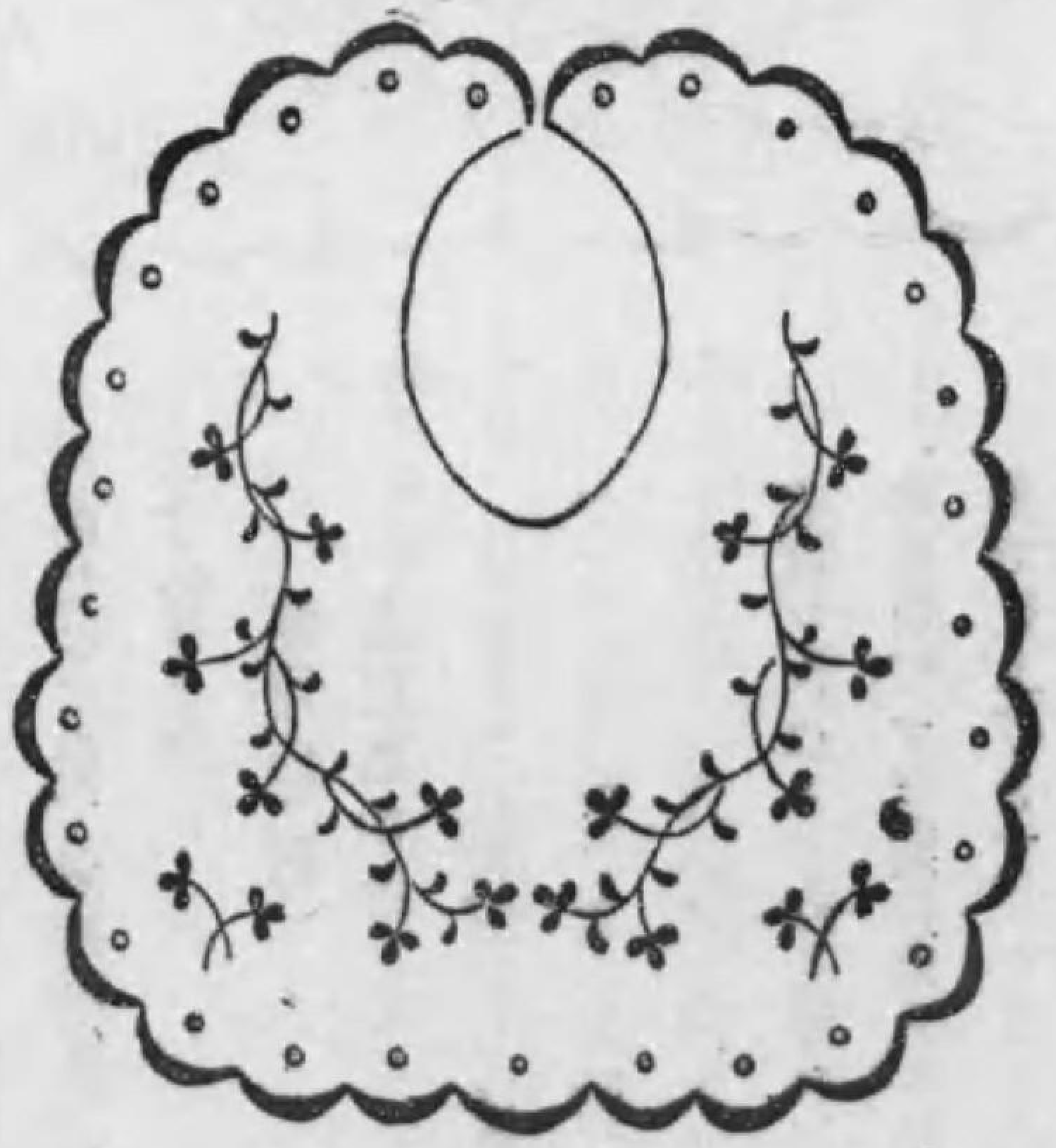
應用の(三)　赤ん坊用帽子

生地はリンネルなどが宜しいでせう、線のほかはみんな穴あきで仕上げます。へりはスカラ縫です。ぐるりとならんで居るのはリボン通しの穴です。かぶるときはリボンを通して適宜に締め兩端を花のやうに結んでその先を長く下げて置きます。

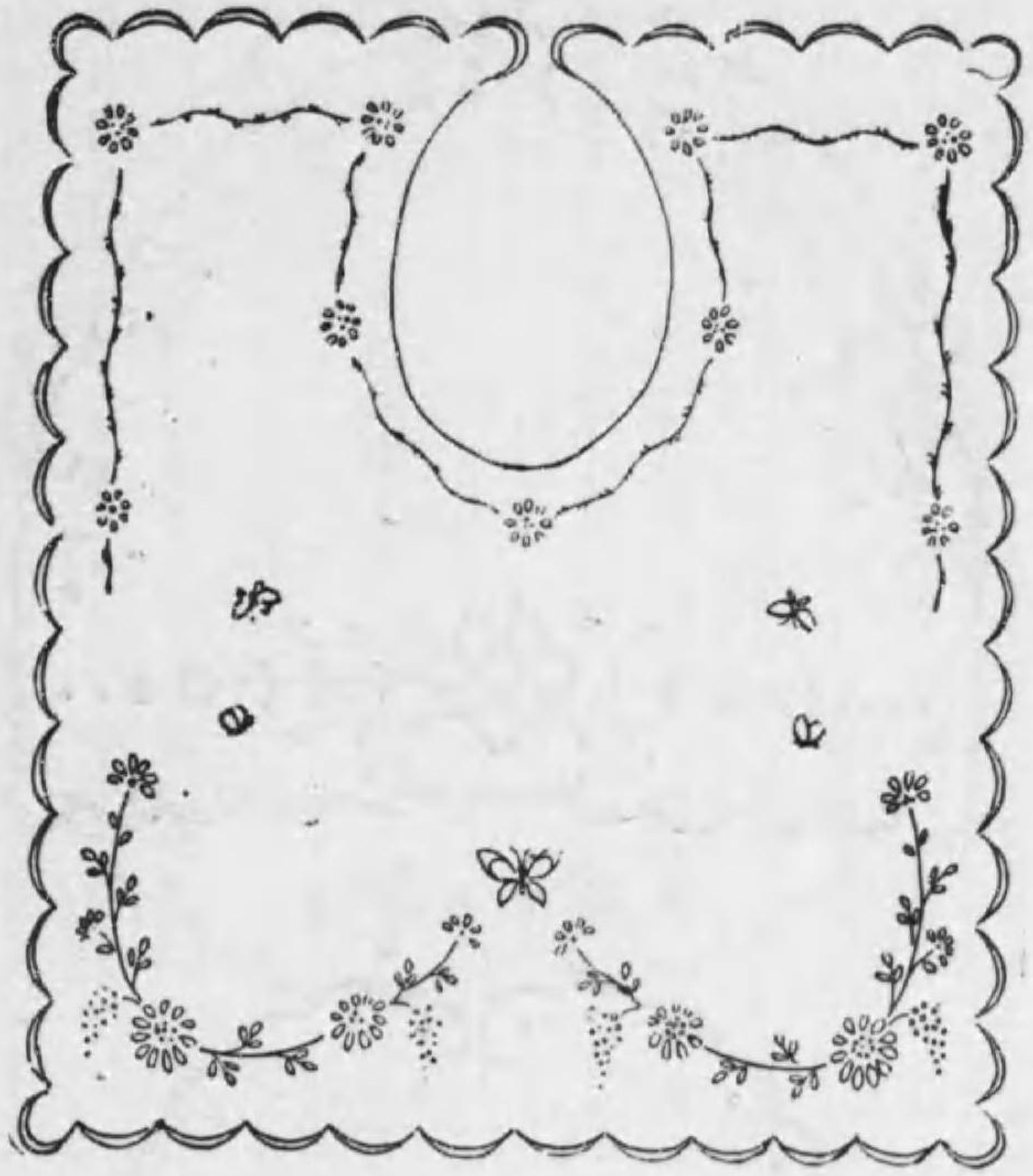
柔かな感じのする色の絲で縫ひますと、大變可愛らしうございます。汚れたときはリボンをほ



赤ん坊用帽子



よだれかけ(1)



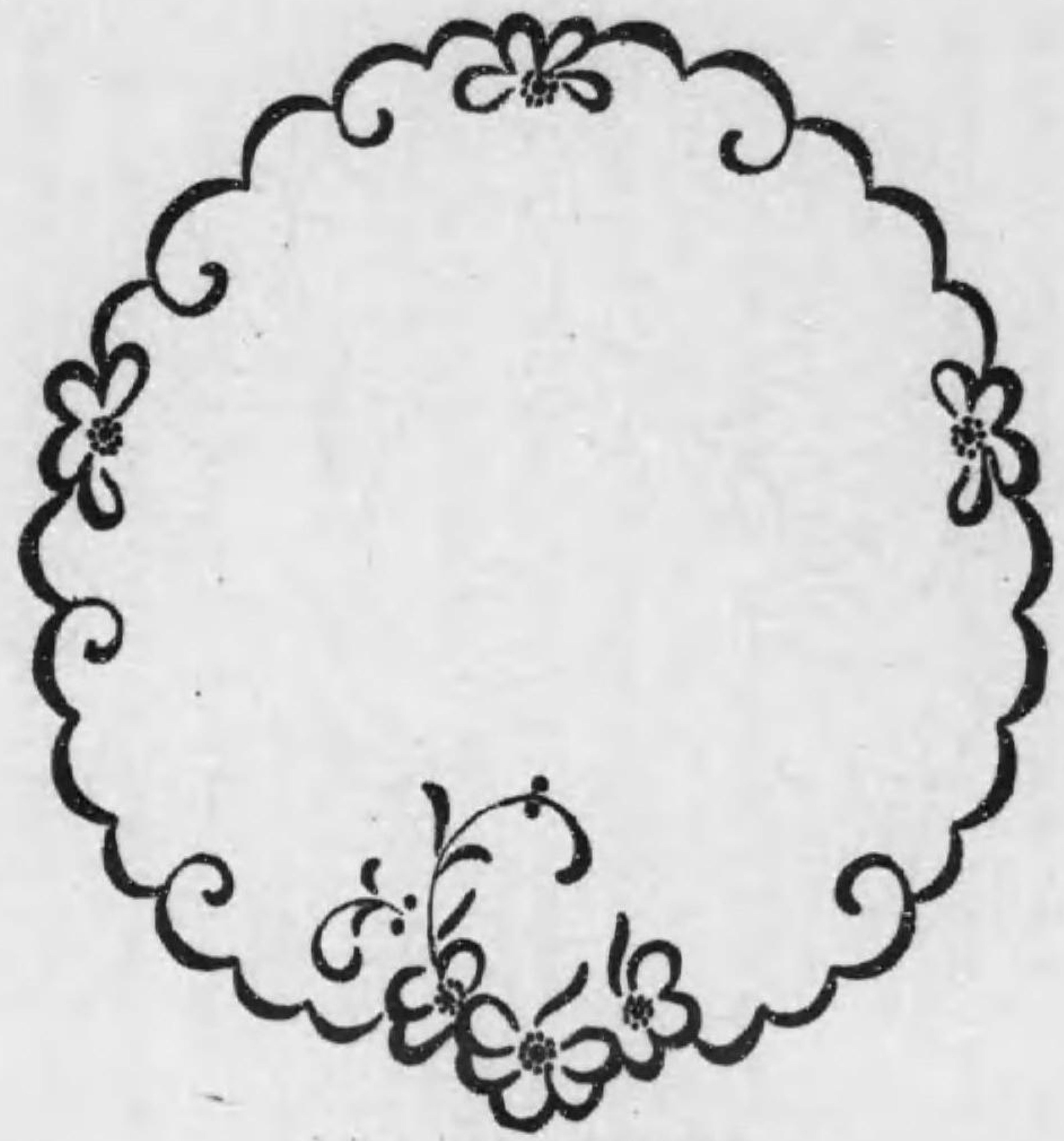
よだれかけ(2)

どいて洗濯をして鏝をかけます。いつも新しいものゝやうになつて居て氣持が宜しうございます。

應用の(四)

よだれかけ

よだれかけに應用した圖案です。(1)三ツ葉から縫ひはじめます。穴あきと肉入りの卷縫をかはるがはる縫ひ、莖は線縫です。葉は肉入りの卷縫で仕上げます。まはりの丸は穴あきでも肉あげでもどち



花瓶敷

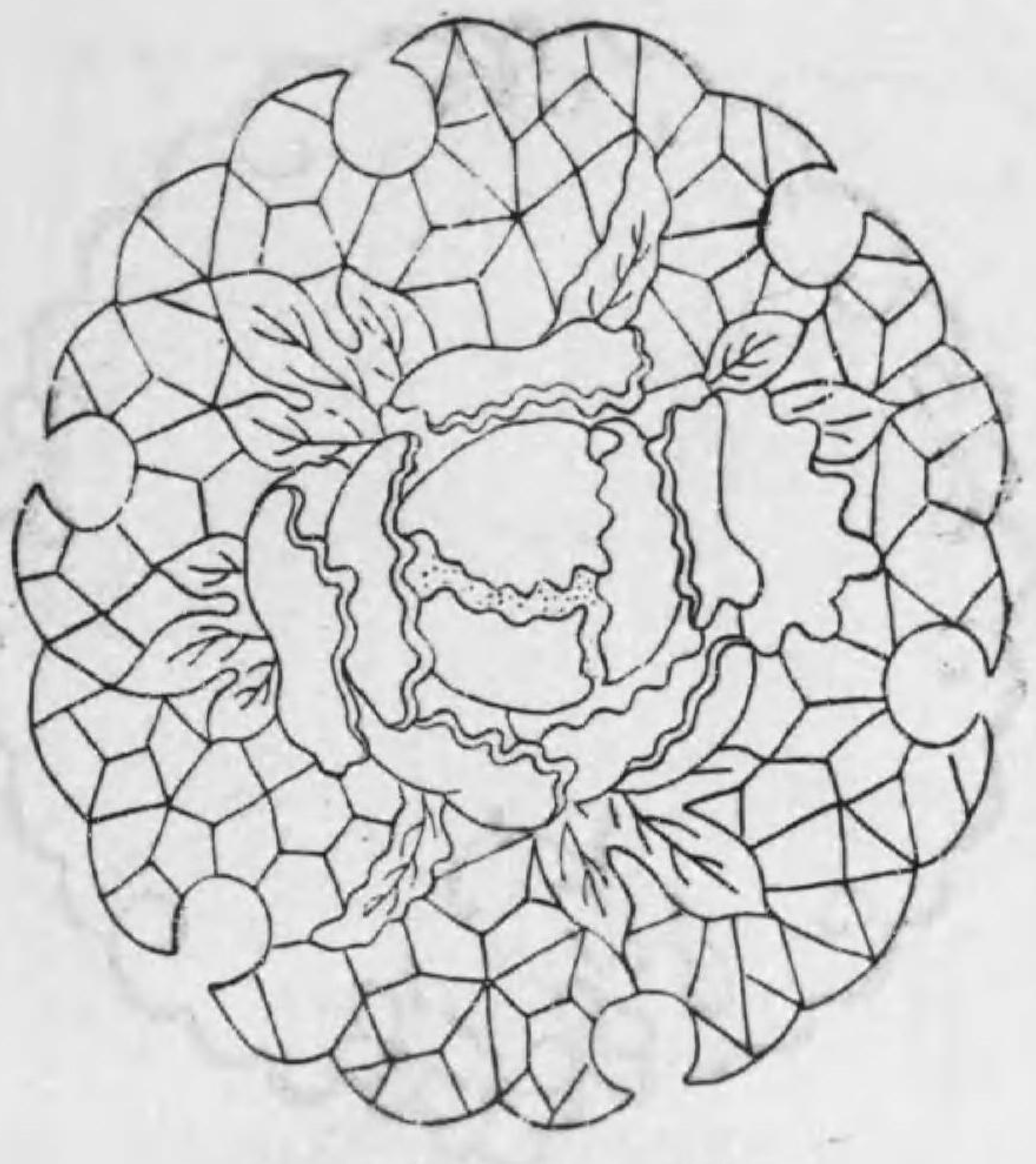
らでも宜しうございます。へりはスカラ縫ひ、首のまはりにテープをつけて出來上がりました。

よだれかけ(2)まき縫ひと穴あきで仕上げても、初歩のチエーンステツチと、フエザーステツチで仕上げてもよい圖案です。兩方縫つて見るのも面白いでせう。

應用の(五)

花瓶敷

花瓶ばかりでなく、置物、植木鉢等の敷物に用ひます。へりは心入りのスカラ縫にして、内側の模



ざぶとんカバー中央の圖案

ざぶとんカバー角の圖案

様はすべて卷縫にします、花の芯の眞中は肉あげ、そのまわりの穴はハンケチのときの穴のあけ方と同じにします。これはたつぷりシンを入れて浮上つたやうに縫ふと綺麗です。絲は白絲、生地は麻など。

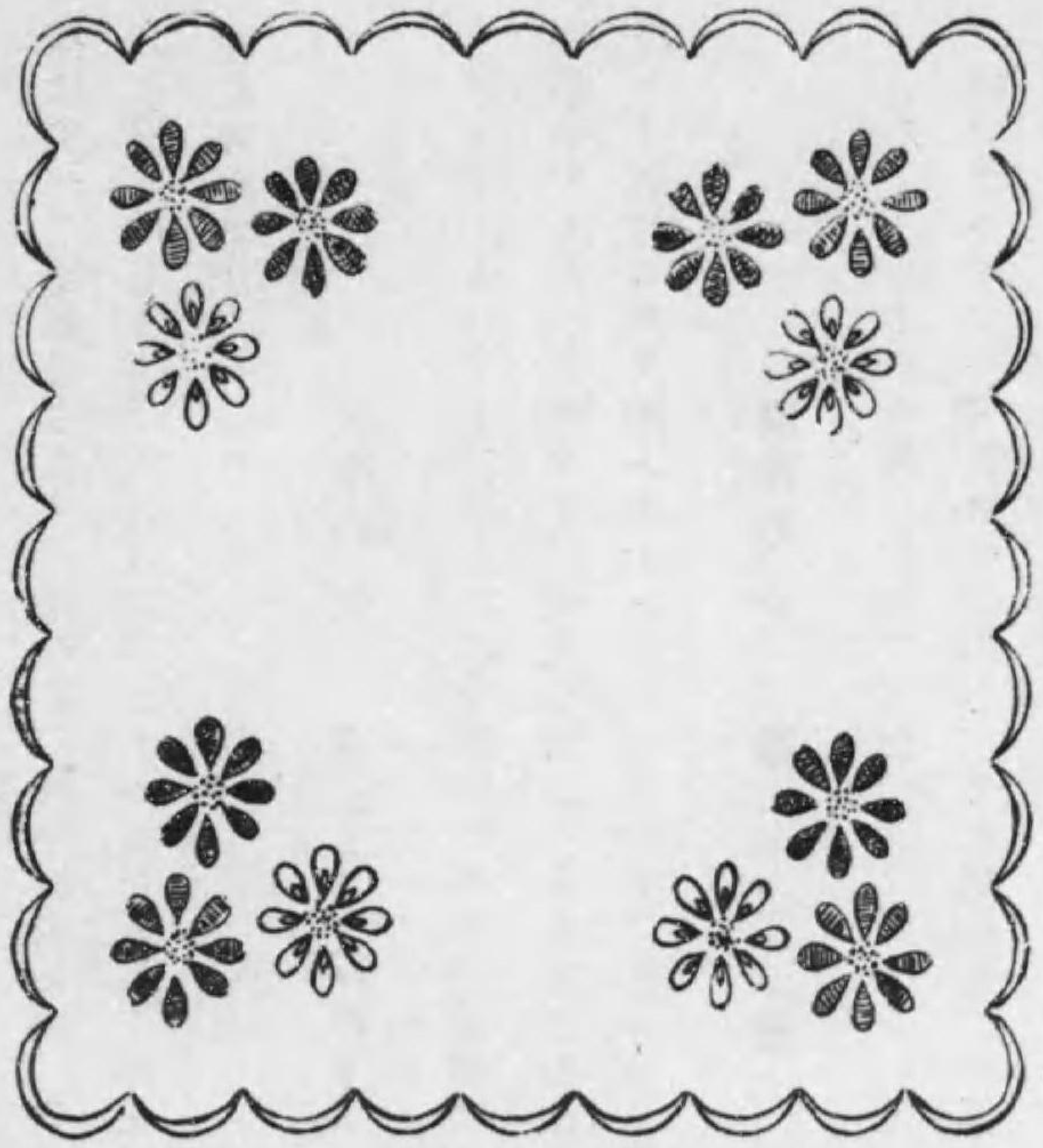
應用の（六） ざぶとんカバー（口繪寫眞）

窓かけにも、テーブルかけにも應用の出來る圖案です。夏のざぶとんおゝひには、品のよい氣の利いたものが出來ます。切抜いたところから下の生地が透いて見えて涼しさうで綺麗です。縫方は全部スカラ縫ひカットウオークです。（三十四頁參照）

應用の（七） 敷物

いろ〳〵なものを置く敷物ですが、クッションにも、何にでも應用出來ます。縫方はキャッチステッチの花と、まき縫のと、半返しばかりで仕上げたのと、三種の花を四角(よすみ)に編みます。シンはみんなフレンチナッツです。ボブリンなどの地に色絲で縫ふと引立ちます。

敷物又はクツシヨンなどの圖案



子供服

應用の（八） 子供服

フランス刺繡應用の極簡單な子供服で仕上げはさつぱりした美しい上品なものです。兩側の袖口の下から裾までは細かく手縫ひにしてあります。首のところと袖口と、裾はスカラ縫で仕上げます。胴のところはリボンを通す巾だけ、スカラ縫のきりぬきにします。肩の邊と背にある三本づゝの筋は、細く襞をとつて飾りにしたのです。

刺繡ちはふつくりと肉を入れた卷縫で仕上げるのです。

タツチング編物

この編物は編方の簡單なのが第一の特色です。シャツター(編器)が一つ二つあれば自由にどこでも、裝飾品や實用品を編むことが出來ます。このシャツターは舟形の絲巻を兼ねて居る、取扱ひの便利なもので、子供にも危險がなく、電車や汽車の中などでも樂に編むことが出來ますから手持ちぶさたのとき、退屈なとき、よい慰めになります。

シャッターと絲

シャツターの選び方。只今では、隨分いろ〳〵なシャツターが賣出されて居りますが、經驗のない方のために、その選び方を申上げませう。第一に兩端がキチンと合さつて居て、一端は滑かに尖つて、少しそりかへつて居なければなりません。兩端の合せ目に隙があると、編むときシャツターの間に絲が這入つて編みにくうございますし、先の尖つて居ないのはつゞけて行くとき別

に鉤針を使ひますから、先の尖つたのを使ふ時とくらべて、時間にも手間にも大變無駄が出來ます。

そのシャツターにも、金屬、鼈甲、セルロイドなどいろ〳〵あります、それぞれ特長がありますから實物によつてお選びなさいませ。私の會で使用致して居りますのは、ニツケルのネジになつて居るので大變丈夫なものでございます。

セルロイドのは輕いので編み宜しうございますがニツケル程丈夫ではありません。

絲の巻き方。ニツケルの方は眞中の螺旋を二三分手前に緩めて、絲の端を巻きつけ、手前から向ふにまはして巻きます。此螺旋を緩め過ぎますと、絲が中に狹さまつて、巻きつけ終つて螺旋(ねぢ)をしめるときにうまくゆきません。もし最初から緩み過ぎて居る螺旋はそれを外して、中に薄い紙をはさんでからしめるやうにいたします。

普通のシャツターに巻きつけるのには、眞中に絲を結び付け、シャツターの先の尖つて居る方の側を左にして、左手に持ち、右手に絲を持つて、手前から向ふにまはして巻くのは螺旋つきのものと同じです。

絲はレース絲でも、カタンの八番でも又絹絲でも、何んでも宜しいのですが、初めは絹の穴絲でなさると、すべりがよく、間違へた時ほどくことも出來て、工合が宜しうございます。

編方の説明

なんでも初めが肝要です。一度間違つた編方を覺えこんでしまひますと、直すことがなか〳〵困難です。これもフランス刺繍と同じにゆつくりと、考へながら試みて下さい、早のみこみをなすつてはいけません。

持ち方。左手の拇指と人さし指で絲の始めを持ち、その絲を中指、藥指、小指と輪にかけて、拇指と人さし指で、始めに持つた絲にならべて持ちます。

シャツターは右手の掌(てのひら)を前にして人さし指と拇指とで持ち、そのまゝ手をぐるりと返しやゝ斜に、手の甲を前に向けます。それから左手の中指と人さし指の間は絶えずシャツターが潜るところですから、廣くあけて置きます。かうして兩手とも編む用意が出來ましたら、

圖解(1)のやうに右手と左手を接近させ、左手の人さし指と中指の間の絲を、はつたまゝ緩め

すに、右手の人さし指とシャツターの間からすべりこませます。圖解(2)。

シャツターは右手に押へられたまゝ左手の絲の向へ行きました。

次にシャツターと人さし指の間を通つて、右手の中にすべりこんだ左手の絲を今度は拇指とシャツターの間を通らせて右手からはなします。圖解(3)

このはなすとき、シャツターと拇指の間を左手の絲が通ると同時に、右手の三本の指にかゝつて居る絲を外して、シャツターを引つぱり絲を締めます。

このときシャツター絲は、左の中指にかゝつた絲をくゞつて、イ圖のやうになつて居ますが、

シャツター絲が左の絲を潜つて了ふと同時に、左の中指をゆるめて、左の絲をたるませ(ロ圖)そして右のシャツター絲を、ピンと引つぱることを忘れてはいけません。かうしますと、ハ圖のや

(25)

うに左手の絲がシャツター絲に卷きつきます。圖解(4)

今編んだものを輕く、左手の拇指と人さし指で押へ、(押えずに次を編みますと、慣れないうちは絲が戻つて、イ圖のやうになつてしまひます)今度はシャツター絲を右手に編めず、下にさがるまゝにして、左手の中指と人さし指の間の絲を、(2)とは反對に、初め、

拇指とシャツターの間からすべりこませ、圖解(5)。人さし指とシャツターの間から引出します

圖解(6)

かうして絲をくゞらせましたら、前と同じに、左の中指をゆるめて、シャツター絲を右の方にピンと引つぱりますと、圖解(7)の(い)のやうに絲がかゝります。これで一目出來たわけです。タッチング編物はどこまでもこれを繰返して行くだけの簡單なものなのです。これを一目と云つてかぞへます。

初めての方の間違ひやすいところを注意までに申上げます。それはシャツターを動かして編む

ために、シャツター絲が左手の絲に巻きつくのを、間違つて居るとは考へずに、そのまゝ、次へ〳〵と進めてしまふので、幾つか編んでシャツターの絲を引くとき、いくら引いても動かなくなつてしまふのです。シャツターの絲は、巻きついて居る左手の絲の、中を通つて自由に動いて居なければこの編物は一歩も進むことが出來ないのです。

この間違ひやすい點をもう一さう判りやすくお話し致しますと、假りにシャツター絲の方を白とし、左手の絲を赤として前にお話した方法で目をこしらへて行きます。このとき白い絲が出て赤い絲が芯になつたら、それは間違ひで、絲が動かなくなつてしまひます。

左の赤い絲が出て、白い絲が芯になれば、それは正しい編方です、(に)(ほ)の兩圖を御覽になりましたら一目でお判りになりませう。

編みながら、糸がちやんとさうなつて居るかゐないかを、一々見ないでも分らせる方法は、左手にかゝつて居る輪の、シャツター糸につゞいて居る拇指の下のところの糸を引いて見て、するとシャツター糸を引つぱることが出來れば丈夫なのです。もしその糸がうごかなくなつてしまへば、それは間違つた編方です。

それから、シャツターを一々指から離して編む方がありますけれど、糸は始終指とシャツターの間をらくにすべつて行きますから、シャツターは離さない方がずつと編みよく、時間も大變早く出來ます。これでシャツターと糸との關係が、よくお判りになつたと思ひますから次に進みます。

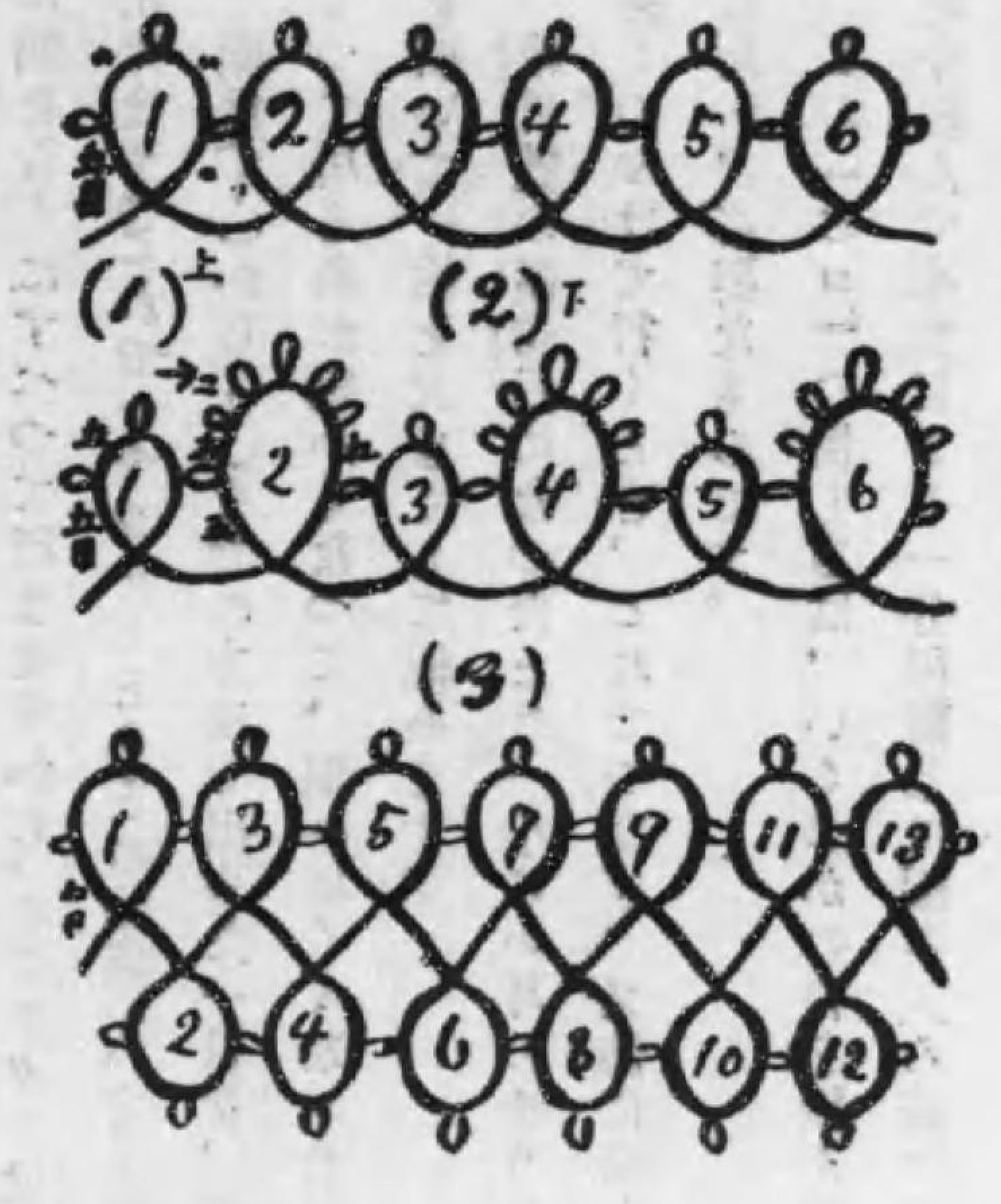
圖解(1)から(7)までの方法で出來た一目を、だん〳〵編みつゞけてゆきますと、左の指にかゝつて居る糸が短かくなつて、編みにくゝなりますから、そのときは左の拇指の下のところの絲を引いて、輪を大きくして編みます。

或目數の區切目になつたとき、小さい耳のやうな形の輪を出します。これは『ピコ』と云つて、長くつゞけて行くとき、これでつなぎ、又飾に出して大變全體を引立てるもので、是非なくてならない、必要なものです。

この『ピコ』の出し方は、いくつかの目を編んで『ピコ』を出すところに來ましたら、次の目を今編んで來た目より一分程離して編み(ろ圖)これを前の目のそばにぴつたり引つけますと、目と目の間に角が出ます。(は圖)

このピコは時によつて、大きく出したり小さく出したり致しますが、一般に連結用には小さく、

飾り用には少し大きくするやうにいたします。



基本編(1)の編方

(1) 五つ編んで、次の六つ目を編むとき、五つ目より一分程離して編み、それを五つ目の方にぴつたりよせますとピコが一つ出來ます。このときにはもうピコの次に一目出來て居ますから、二三四五と、みんなで五つ編んで又ピコを出し、又五つ編んでピコを一つ出します。これで三つピコが出ました。次にこの三つ目のピコから又五つ編んで、それが出來ましたら、左の指にかゝつて居る糸を皆はづして、編んだところを、左の指で輕く摘み、シャツター糸を引締めます。

(7圖の(は)と同じ)

(2) 今編んだものより一分五厘位（糸が太ければ二分立）離したところを、極最初のやうに左手の拇指と人さし指で押へて、前と同じに五つの目を編みます。その五つ目が出來ましたら、それを前に編んだ環に編みつけるため、シャツターの先のとがつて居るところで、前の環の三つ目のピコ（最後に出したピコ）の穴から左手の人さし指と中指の間の糸（今五目編んで來た編みかけの糸）をすくつて引出し、そのすくひ出した編の中にシャツターを通します。

圖解はすくひ出した糸の輪の中に、シャツターを通すところ。(イ)は通し終つた糸の態。次にシャツター糸を引締めると同時に左の中指をひろげて編んで來た五つの目に摘ふやうに左の糸を引締めますとそれで結びついたのです。(ロ)圖

それから又元の通りに五つ目編んでピコを出し、又五目編んでピコを出し、又五目編んで絲を引締めます。これと同じ方法で3、4、5、6と編進んで行きます。

以下基本編を圖について説明致しますが、圖に示します1234と算用數字の記號は、その編みつゞけてゆく順序を示し、日本數字で五とか十とか記號しましたのは、その編む目數を示したのですから、そのおつもりで御覽下さいませ。

基本編（2）の編方

（1）五目編んでピコ、五目編んでピコ、五目編んでピコ、五目編んで締めます。

（2）五目編んで（1）の終りのピコに止め、五目編んでピコを出し、次には二目してピコを出し、あと二目毎にピコを三度出し、全體でピコが五つ出しましたら、又五目編んでピコを出し、五目編んで絲を引締めます。この（1）と（2）を交る交る編めば宜しいのです。

基本編（3）の編方

（1）前の（1）と同じ編方です。

（2）（1）にならべないで、（1）を下に向けて置いて同じ目數で作ります。

（3）目數は同じで、（2）の反對の側に作り、始めのピコを（1）につゞけます。

（4）又持ち代へて、始めのピコを（2）につゞけます。かうして一つ一つ向きを替へて編んで行くと圖のやうになります。

基本編（4）の編方

3と同じで上下上下と交る／＼編みます。

（1）3の（1）と同じ目數。

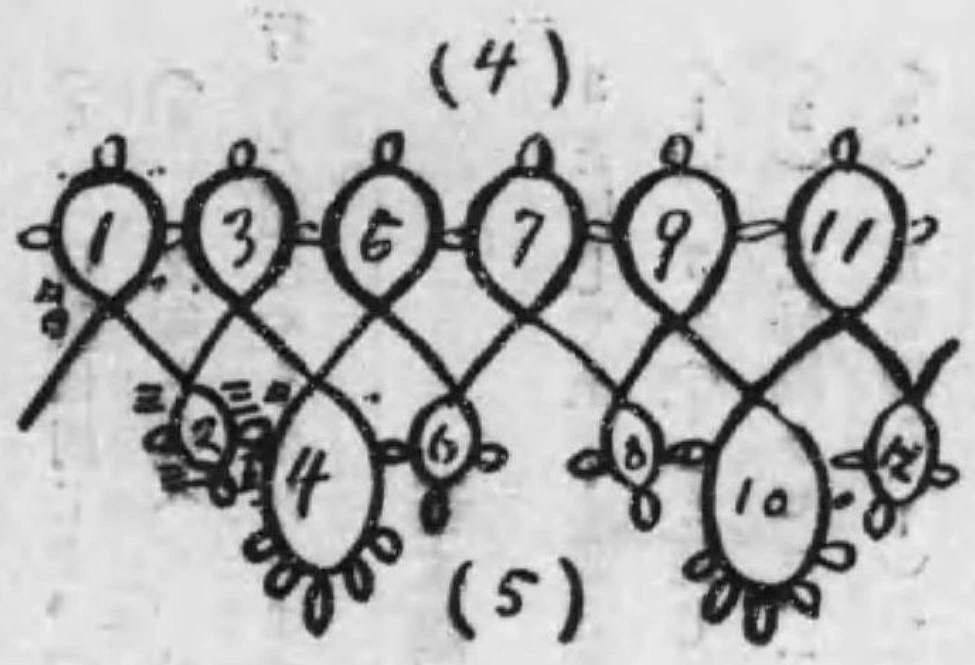
（2）三目編みピコ、三目編みピコ、三目編みピコ、三目編んで締めます。

（3）五目編み（1）の右側のピコに止め、五目編みピコ、五目編みピコ、五目編み締めます。

（4）五目編み、（2）の眞中のピコに止め、五目編みピコ、あと二目毎にピコを出して、そのピコが五つ出たら、五目編みピコを出し、五つ編んで締めます。

（5）（3）と同じ。

（6）三目編みピコ、三目編み、（4）の終りのピコに止め、三目編み、ピコ、三目編んで締めます。（7）からは今までの編方を繰返します。



二本の絲を使つて編む編方

一つの環をこしらへるのは、一本の絲でなければ出來ませんが、環から環に渡るみちを編むのには、一本の絲では出來ないのです、二本の絲を使ひますと、さういふところも編めるばかりでなく、變つた色の絲をまぜることが出來るので、色彩の單調を破ることも出來て一層興味を増して參ります。

二本絲を使ふ場合も、右手の絲は芯となり、左手の絲は編絲となります。二本絲の場合の編絲は、いろ／＼に工夫される環を助けて、環と環の間の飾りとなり、

つゞけるのがその役目です。編絲はシャツターに卷かないで、絲卷のまゝでも使へますが、絲の配合を自由にするためには——やはりシャツターに卷きます。一方の芯絲の方は必ずシャツターに卷かなければ編めません。

この二本絲の使ひ方は、圖解のやうに、始め右手の芯絲と、左手の編絲との二本の絲の端を少しあけて、一緒に左の人差指と拇指でつまみ、編絲の方は左手の中指の背から、くすり指の內側を通つて、小指に二卷程かけます。そして芯絲（二本絲の時の芯絲をシャツター絲とは申しません、多くの場合編絲の方にもシャツターをつけますから）は一本絲の場合のシャツター絲のやうに、必ず右手に持つて、編絲のための芯になります。かうして二本の絲の持ち方がお判りなりましたら、一本のときと同樣に、芯絲を左手の人差指と中指の間の絲にくゞらせて、目數を編むと（イ）圖のやうに、編絲が芯絲に絡みつきます。

☞ 絲のつなぎ方。小さいシャツターに卷ける絲の長さはたかの知れたものですから、長く編んで

行くうちには、どうしてもつながなければなりませんけれど、つなぎ玉が出來ては滑らなくなるので、よく氣をつけなければなりません。締めて次の輪にうつるところなら大丈夫です。絹絲はほどけやすいので、堅くつないだあと、そのつなぎ目にチョット糊をつけておけばほどけません。

基本編(5)の編方

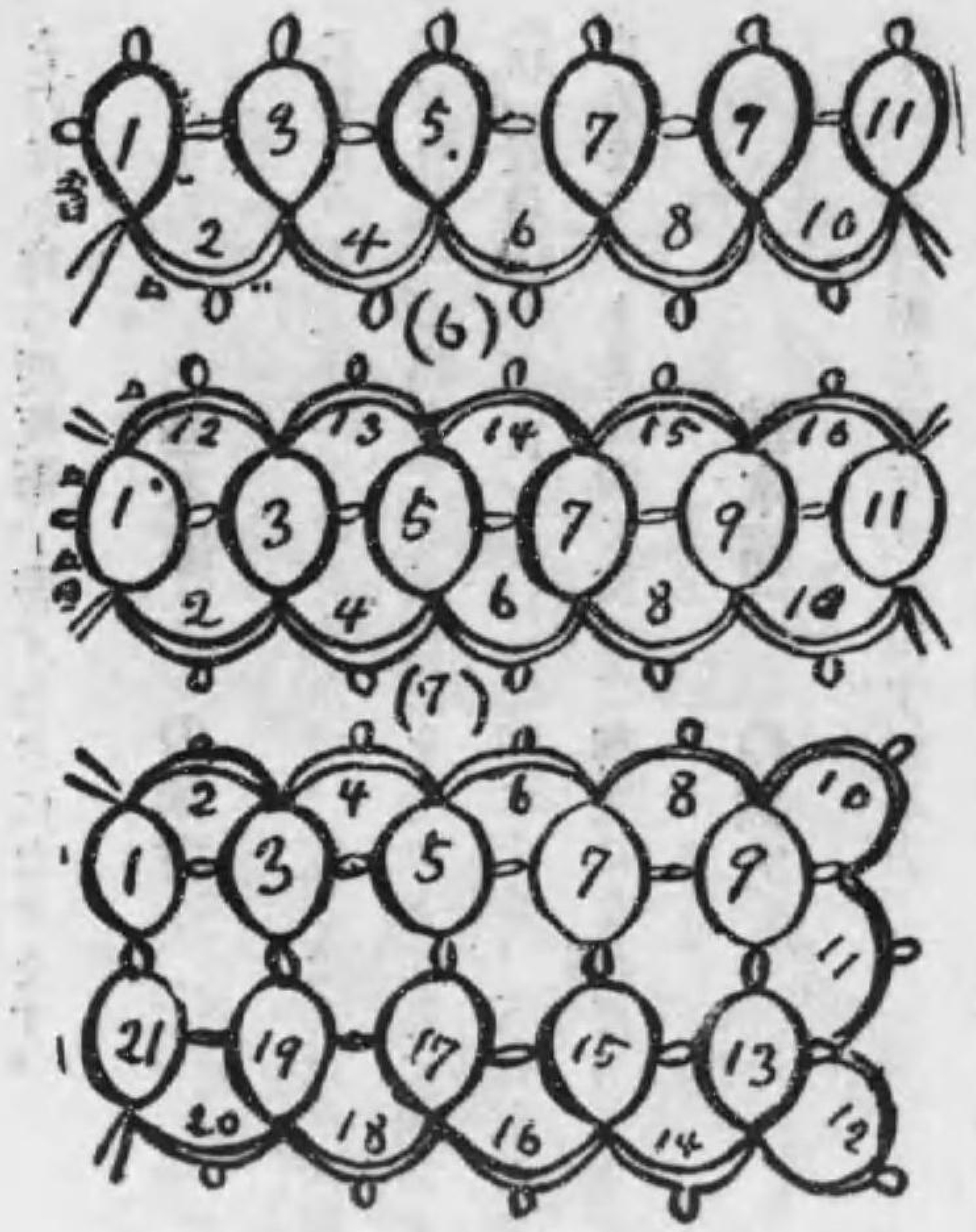
(1) 五目編んでピコを出す編方。そのピコを三つ出して、五目編んで締めます。次に二本の絲にして、(1)から(3)に渡る途、(基本編1や2では絲一本の處)を編みます。これは前に說明いたしましたやうに、今(1)の環を編んだ絲を芯絲にし、新しい絲を編絲にして左の指にからめ五目編んでピコを出し、又五目編んで(3)に移ります。(2)

(3) 編絲の方はすつかり手から離し、芯絲だけで(1)と同じに編み、(1)につなぎます。

(4)は(2)に同じく二本の絲で編み、(5)は(3)と同じです。この順序で編みます。

基本編(6)の編方

(1)から(11)までは基本編5と同じです。(12)から又新しく二本絲を使つて、並んで居る環の頭のピコを渡つてつゞけてゆきます。



基本編の應用

このタッチングの基本編は、たゞお稽古に編むばかりでなく、入用の長さだけ編んで何んの緣につけても美しい飾りになりますから、すぐと應用が出來てたのしみです、ピアノかけ、テーブルかけ、下襦袢の袖口などの洗濯するものには新カタンの二十番か八番が適當です。又廣袖の襦袢袖につけますと、丈夫でなかなか切れず、地はいたみません、タッチングだけ換へれば宜いので縫ひ直しの

手間も省けて便利です。

そのほか袴の腰板飾，帯〆などになります。

基本編（7）の編方

これは5を上下つゞけたもので，（10）までは5と同じに編み，次は二本絲を使つて十目編み（眞中にピコを一つ出して）又（12）をそれと同じに編みます。

（13）五目編み（11）と（12）の間に止め，五目編んで（9）の頭に止め，五目編みピコ，五目編んで止めます。あとは圖に依つて御覧になれば分りませう。

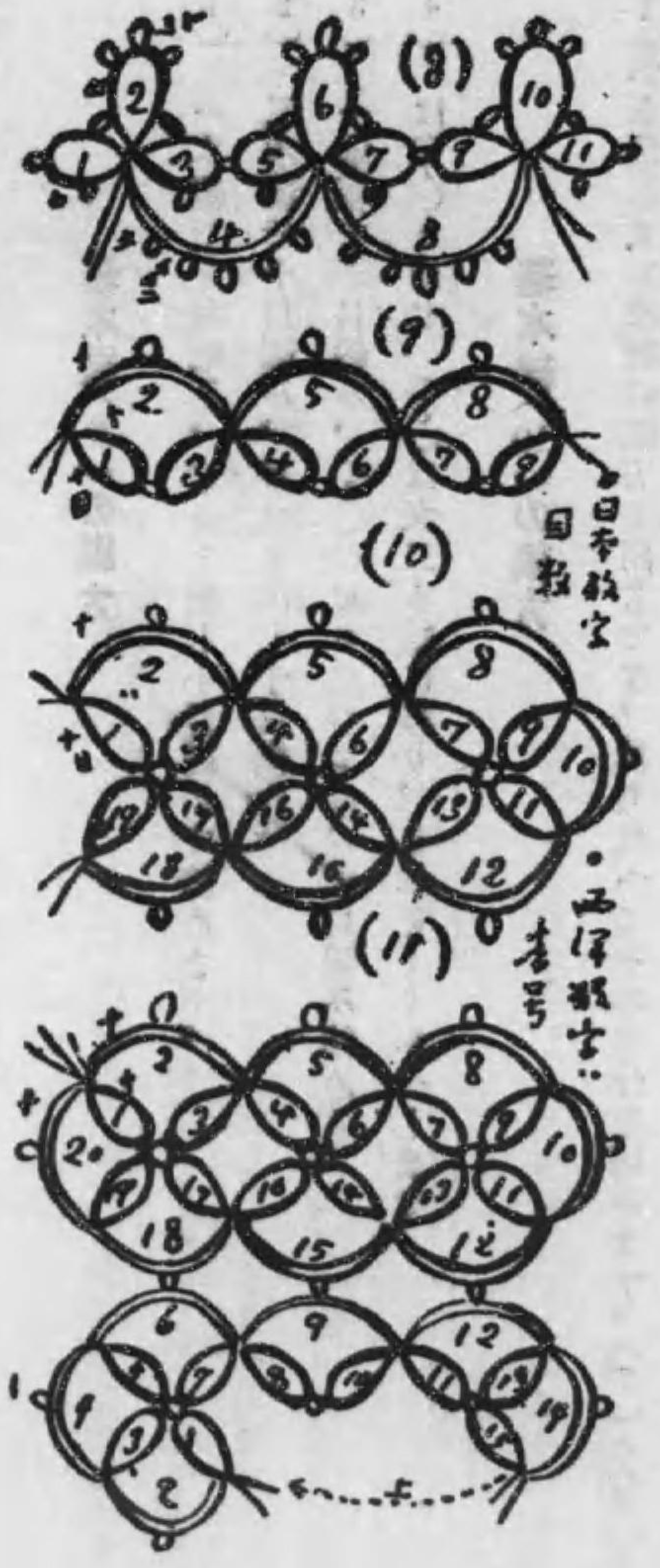
基本編（8）の編方

（1）五目編んでピコを出す編み方。

（2）やはり一本絲で五目編み，（1）の終りのピコに止め，五目編みピコ，二目編みピコを出し，そのピコを三つ出しましたら，五目編んでピコ，五目編んで締めます。

（3）は（1）と同じ（2）の終りのピコに止めます。

（4）二本絲にして，五目編み，ピコを出し，次から三目編んではピコを出し，そのピコが五つ出ましたら，五目編んで終る。



（５）（１）と同じですが、中のピコを（３）につなぎます。（６）（７）（８）と（２）（３）（４）と同じです。

基本編（９）の編方

（１）一本編で十目編み、ピコを出し十目編んで締めます。

（２）二本編で十目編み、ピコを出し十目編む。

（３）一本編で十目編み、（１）のピコにつゞけ、十目編み締める。

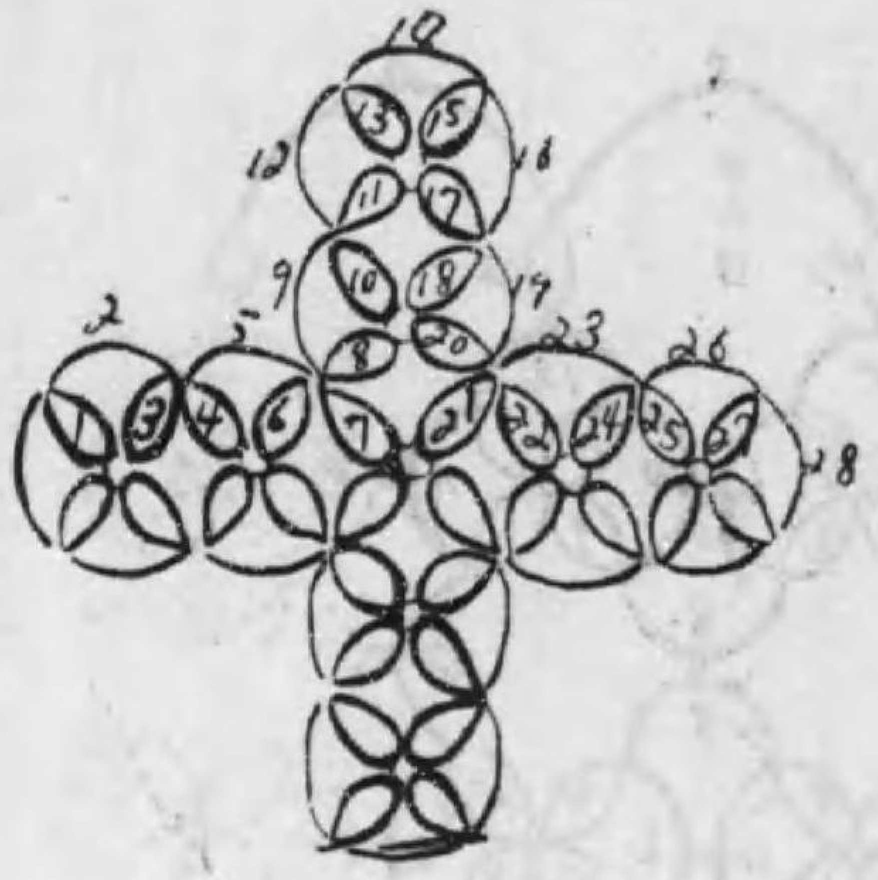
（４）は（１）と同じ、（５）は又二本絲に移り、これをくりかへします。

基本編（10）の編方

（１）から（10）までは前の編方と同じです。持ち代へてその半分を編みます。（７）と（９）とつながつて居るピコに（11）（12）の頭をつなぐのです。

基本編（11）の編方

前と同じ編方を二段重ねたものです。先に入用の長さだけ上の段を編んで、あとからそれに下の段をつゞけます。これを長くつゞけますと手提などいろ〳〵なものが作れます。



枝折の編方

技折。

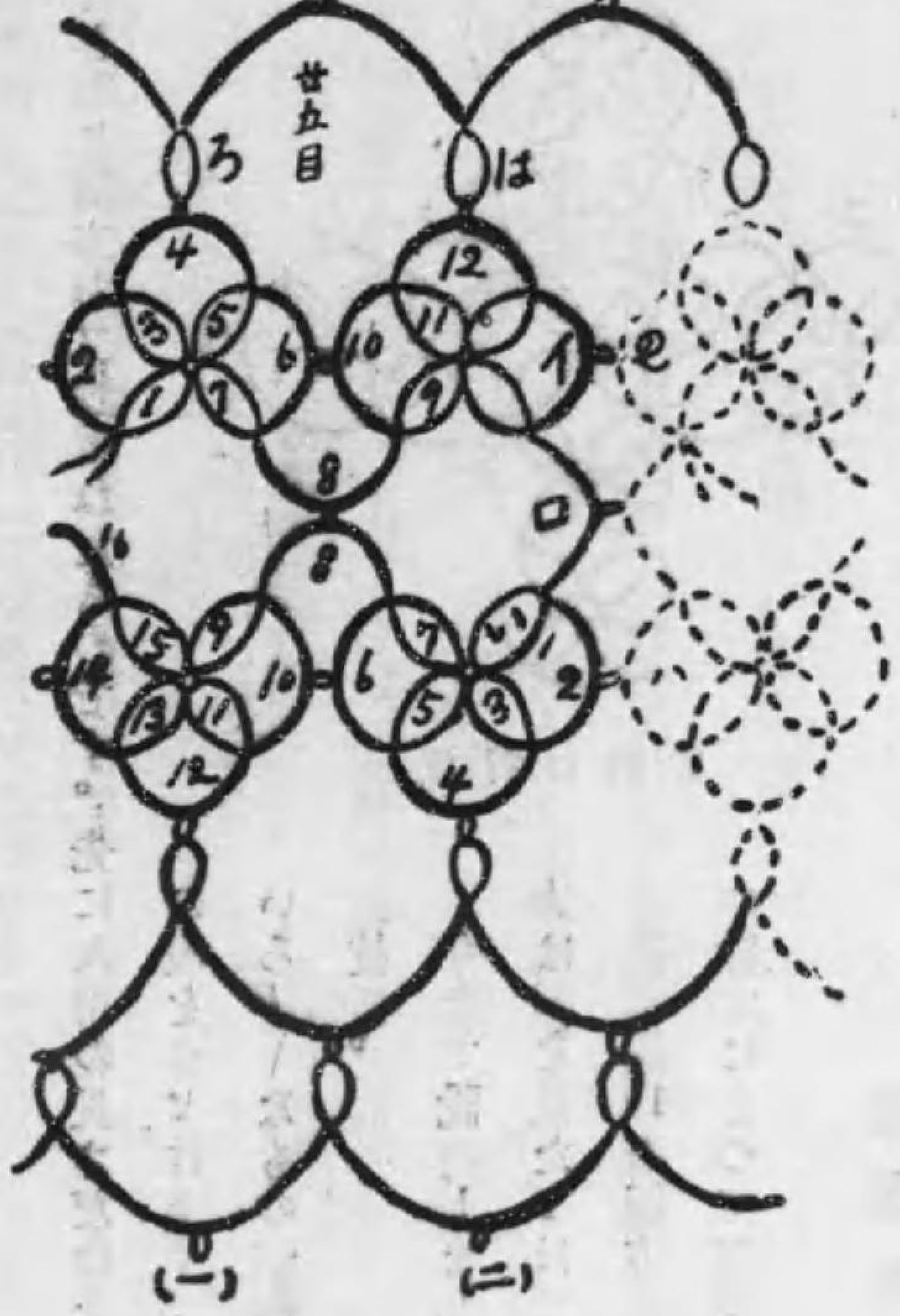
今まで說明しました基本編がお判りになれば次の編方は圖を見たゞけでお分りになると思ひます。

基本編10の編方と同じですから、つゞけ方順序は圖の數字によつて御覧下さい。下に房をつけます。

簡單な手さげ

眞中の二段重なつた七寶形のものを先に編んで、あとから上下の波形をつけます。

（1）一本絲で十編み目、ピコを出し、十編んで締めます。



手さげ編方

（2）二本絲で十編んでピコを出し、十編んで終ります。かうして數字の順に（8）まで編みます。次の（9）から（10）までは（1）から（8）までと同じ編方ですが、二本絲で（10）を編むとき、十編んでピコを出すときピコの代りに、（6）のピコにつゞけ、十編んで（11）に移ります。

この順序で（1）から（7）までのものを一つと見てこれを十二編みましたら、十二目の終りの二

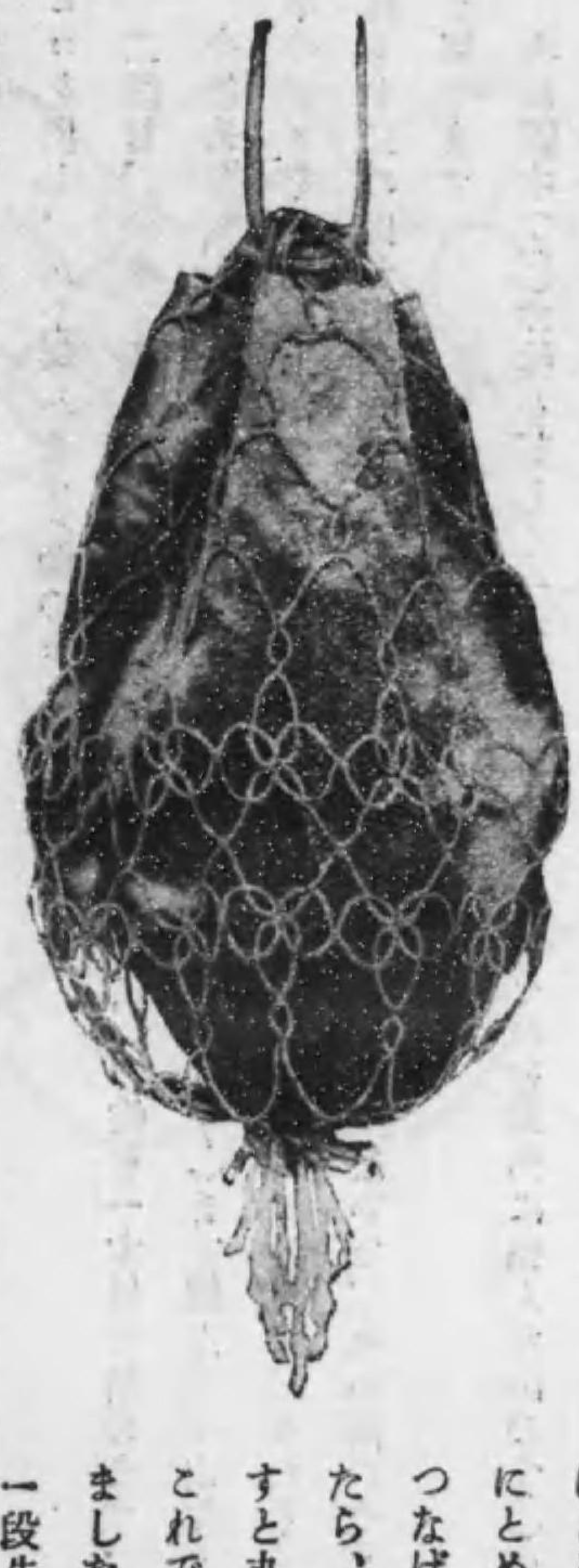
本絲で編むピコは（圖の（イ）に相當するところ）編みはじめの（2）のピコにつゞけます。そこから十編んで、次の一本絲で編む環を編み終へましたら、二段目に移るため、二本の絲で十編んでピコを出し、又十編みます（圖のロ）

二段目、今まで編んだものをさかさに持つて、（い）の輪を一本絲で始めます。

今始めた（い）は一番最初の編み始めと同じく（1）から（7）まで編んで一山作り、次の（8）の眞中のピコを、出來上がつて居る一段目の方の（8）のピコにつゞけます。これをくりかへして二段目も十二の山が出來ましたら、又一段目の終りのやうにつないで、丸い筒のやうにして一たん絲を切ります。

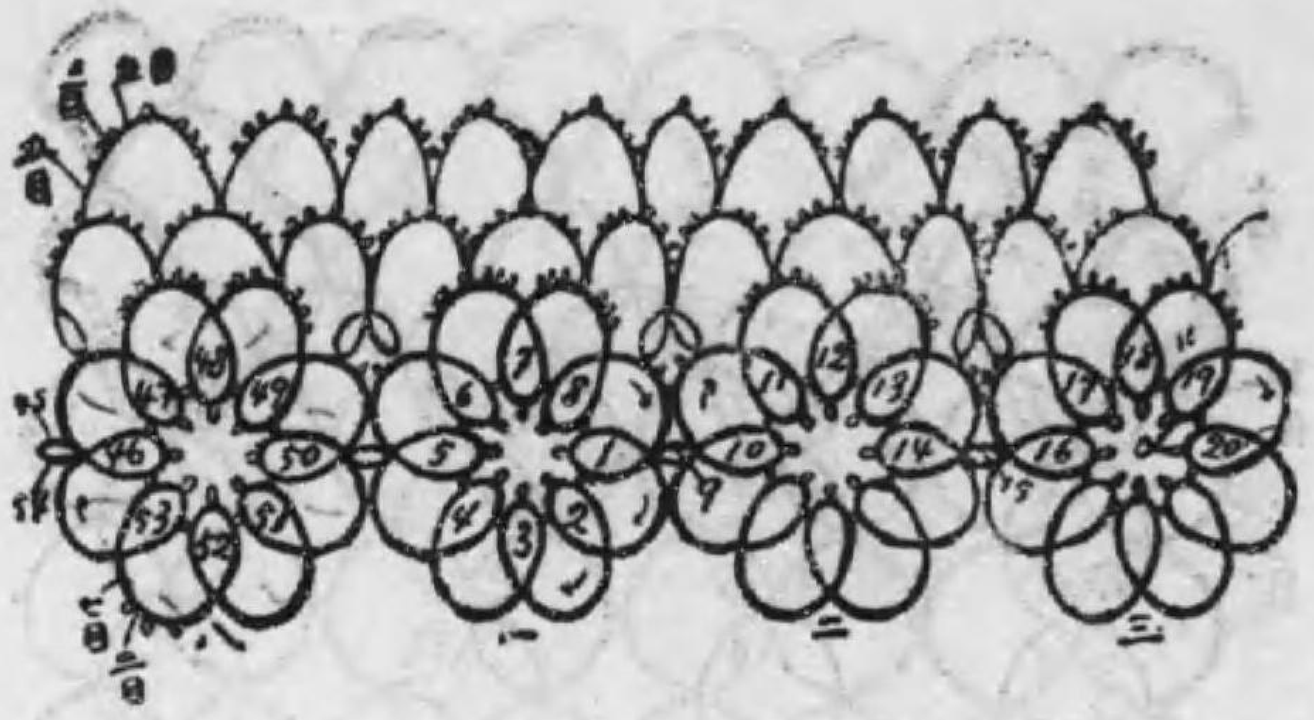
次に圖中（ろ）の輪を新しく一本の絲で十編み、それを最初に編んだ山の（4）のピコにつゞけ、又十編んで締めます。次は二本絲にして、廿五目編みピコを出し、廿五目編んで（は）に移ります（は）は（ろ）と同じに編んで二番目の山（12）につゞけます。かうして順々に編んで一段あみましたら、この段の最初の絲と堅く結び合せて、とけないやうにしてから五分位端を出して絲を切ります。この編方が波形になります。次の段は、二本絲で編んだところのピコに、一本絲で編む輪の

頭を止めます。この波形をもう二段して、(全體で四段)口元の方は終ります、今度は新しく底の方に同じ編方で二段編みます。



手さげ出來上り

底は別に一本絲で一目編み、二段目の眞中のピコ(圖中「一」)につなぎ、又一目編み、次のピコにとめ、一目編みピコにとめかうして十二度つなげて一廻りしましたら、それを引締めますと丸くつぼまります。これで袋は出來上がりました。飾りは波形を一段先に編んで置いて適宜の房か、うつりのよい絹ひもを十本程、前後不揃にして眞中を堅くくゝり、その一本づゝに結び玉を二つ程作つて下げたものを底につけます。その結び目をかくすために前に編んで置いた



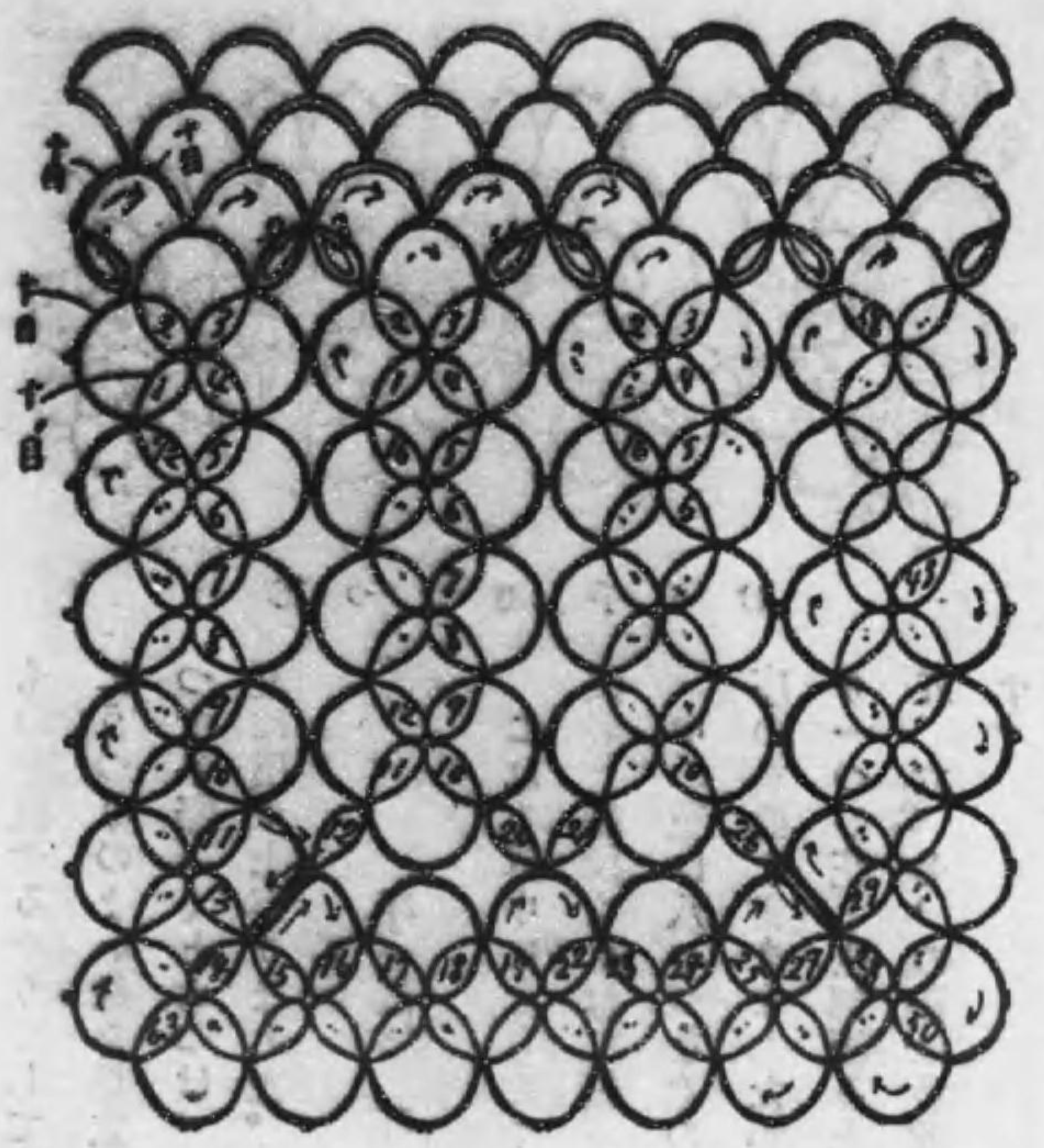
花つなぎ手さげ

ものを被せるやうにしてくゝりつけます。それから中の袋は絲にうつりのよい絲を見立てゝ、編んだものよりやゝ大き目に縫つて手際よくとぢつけ、口の方の四段目はひも通しにしてこの袋は出來上がりました。

手さげ　花つなぎ

これも眞中にならんで居る花を先に編んで、あとから上下の波形を幾段も重ねて編みます。

中の花は八つつなぐのが丁度よい形です。圖には編みよい順序の番號を書きましたからよく御覽下さいませ。最初は番號通り一つの花を全部編み上げてからとなりに移り、二、三、四、五、六、七、の花は番號通り、半分づゝ編んでとなりに移ります。



おしまひの八の花は、はじめの一の花につなぎ合せて全部編み上げ、七の花に移りまだ編んでない半分を仕上げ、六に移り五に移り、あと戻りして半分づゝを仕上げて行きますと、二の花の終りで八つの花がすつかり編み上げられて一つの輪になります。

　波形のつけ方は前に説明した手さげと同じです。目數とつけるところとは圖によつて御覧下さい。

　底、飾りともに前の方法と同じです。

手さげ　七寶つなぎ（口繪參照）

　これは基本編11のところで説明した、七寶つなぎを二段重ねたのものを眞中にして作りだしたものです。

　上の方をのぞいて兩横と底の三方を、同じ七寶で二筋つなぎ合せ、その同じ大きさのものをもう一枚編ます。この二枚目の一番最後の外廻みりを編むとき、初めに編んだ片側の方のピコにつなぎながら、順々に編んで行くと袋になります。これだけでは手提として丈が短かいやうでしたら、圖解の上部に二線で示して置きましたやうな波形を二三段つけて止めます。次に中袋をつけるのですが、中袋は一枚のものより、ちやんと裏をつけてしつかりと縫つてつけた方が、體裁もよく丈夫です。

　編む順序は御隨意ですが、こゝにはあみやすい番號をつけて置きました。

フランス刺繍とタッチング

大正十二年四月十九日印刷
大正十二年四月廿五日發行

著作者　金澤静子

合資會社アルス代表者
發行者　北原鐵雄
東京市京橋區銀座尾張町新地五號

株式會社博文館印刷所
印刷者　堀専一
東京市小石川區久堅町百八番地

製本　山本綸

定價九拾五錢

發行所　東京市京橋區銀座尾張町　合資會社　アルス
振替東京二四八八八番
電話銀座二二一九三番

版權所有

アルスの音樂書

前田三男著 西洋音樂十二講
混沌蕪雜なる我現樂壇に對して近代西洋音樂の正調とその眞髄とを傳へつぶさに其の發達を鳥瞰的に解明せるものにして絶對に他の追從を許さぬ好著。
定價2.50 送料0.17

山田源一郎著 樂譜の讀み方
樂譜の讀み方は音樂に志す者の第一の關門である。樂譜は難かしいものと思つてゐる人々の爲めに極めてやさしく親切に解說された今までにない指導書であります。
定價1.30 送料0.11

山田源一郎著 ヴァイオリンの彈き方
最も普及され愛好されてゐるヴァイオリンの彈き方を解りやすく說いたもの、指のつけ方、調子の合せ方、姿勢、持ち方、運び方など圖解を見ればおのづから會得される樣に書いてある。
定價1.30 送料0.11

山田源一郎著 マンドリンの彈き方
日本室にしつくり合ふマンドリンの彈き方である。獨習者の爲めに出來るだけ平易明快に無駄なく解かれてゐる。深山の樂譜と圖解あり。けだし絶好の獨習書である。
定價1.30 送料0.11

アウアー著 馬場二郎譯 ヴァイオリン奏法
エルマン・ツインバリスト・ハイフエッツ・ピアストロ・パアロウ等歐米大陸の樂壇に異彩を放てる現代一流の大提琴家は、本書の著者アウアー氏の門から出たので本書内容は氏がその過去十年間の經驗と觀察の結晶です
定價2.00 送料0.15

小松耕輔著 西洋音樂の知識
音樂會にゆく時、歌劇を見るとき音樂書に接するとき絶好の案內書である。悉く通俗を旨とし、樂譜の挿入をさけ文字の說明のみを以て樂譜を讀み得ざる初學者の爲めに深遠なる音樂は解放せられた。
定價2.60 送料0,17

アルスの童謠叢書

北原白秋著　繪入童謠　とんぼの眼玉

全國を風靡せる白秋氏の童謠集。子供が、手を叩き足を跳らして喜んで歌ふ唄はこれです。特に誇るべきは装幀に挿畫に最善の華麗をつくし、童謠一篇ごとには燦然たる色刷の挿畫を一葉づつ附してある。

定價1,90　送料0,15

北原白秋著　繪入童謠　兎の電報

日本童謠の最高標準を示すものである。何人の追從をも許さない天衣無縫の神品である。華麗なる挿畫三十六葉を收め、童謠と挿畫と相對して興趣無量なるもの。

定價1,90　送料0,15

北原白秋著　英國童謠　まざあぐうす

英米の子供達に昔から愛されてゐる不思議で美しくて、をかしくて面白くて笑ひたくて、はては歌ひたくなる世界的の童謠を、白秋氏が輕妙な日本の民謠調に譯されたものです。

定價2,80　送料0,17

北原白秋著　繪入童謠　祭の笛

「とんぼの眼玉」「兎の電報」以後の白秋童謠集である。日本が上下三千年を費してやうやく生み得たるたゞ一人の最初の民謠詩人の傑作として永遠に傳へらるべき不朽の童謠集。

定價2,80　送料0,17

三木露風著　繪入童謠　眞珠島

天眞のみづみづしい感覺と想像とを易い言葉でうたはれた眞に純情精新なる露風氏の童謠集。著者は子供の爲に子供の歌をつくつたと云つてゐる。

定價2,80　送料0,17

北原白秋著　童謠のお話　羊とむじな

子供にわかりやすい言葉で白秋氏が靜かに語り出だされた童謠のお話です。凡て自作の童謠を引き出して一々詳細なる説明を附せられたもので、まるでお伽噺でもきいてゐるやうです。

定價0,75　送料0,11

アルス婦人叢書

本叢書刊行に就いて

アルス婦人叢書は、婦人の生活を内部からも外部からも革新し婦人の使命を全からしめんが爲の寄與である。昔から云ふ、衣ること食ふこと、住むことの凡ても、内からの要求が目醒て來て初めて新しい試みが行はれる。女性は目醒た。現代に應ずる生活の樣式は日に日に革新されつゝある。聰明なる婦人は新時代の文化を吸收して内面的にも外面的にも家庭の意義をよりよく完成することに努めてゐる。わがアルス婦人叢書の刊行は最も時宜に適した企畫であると信ずる。各篇自ら内容の題材と目的は異つてあつても、その内よりするものと、外よりするもの數れを問はず最善の用意を以つて編述せられ、生活をよりよき方向へといふ一語を目標として各篇の精神を一貫せしめんとするものである。

金澤靜子氏著　**フランス刺繡とタッチング**　定價九拾五錢　送料拾壹錢

三須裕氏著　**お化粧と髮の結ひ方**　定價壹圓廿錢　送料拾壹錢

岸本あさ子氏著　**新しい編物**　定價九拾五錢　送料拾壹錢

羽田春野氏著並書　**新式ペン習字法**　定價壹圓廿錢　送料拾壹錢

アルスの婦人思想書

ストウナア夫人著 中村八郎譯 どうして子兒を育てるか
天才でも神童でもない一少女がその育て方一つで殆んど事實と思はれぬ才能を發揮して十三歳で大學を卒業に至る、その教育法を詳述したストウナア夫人の實驗錄で從來の教育界に一大衝動を與へた名著。
定價2,30 送料0,17

與謝野晶子著 愛の創作
唯一の女流評論家として女性の本道に立ち年來の獅子吼を續てゐる晶子氏最近の論集である透徹した理性と燃ゆるが如き情熱を以て藝術哲學婦人問題はもとより教育政治總ての問題に新しい眼を開てる。
定價1,80 送料0,17

大橋房子著 愛の純一性
男が女に對する愛は奪ふ力である女が男に對する愛の表現は與へる形式をとる男に取て愛する事は苛める事であるが女が愛によつて味ふ快感は苦痛の中にあると自由なる戀愛を謳歌してゐる。
定價2,00 送料0,15

ベーベル著 山川菊榮榮 婦人論
本書は獨逸に於て發賣を禁止せらるゝこと二回後解禁せらるゝや婦人問題社會問題の經典として爭つて世界の各國語に飜譯せられ思想界に甚大の刺戟を與へたるもの原名は婦人の過去現在及び未來と題す。
定價4,50 送料0,21

堺利彦 山川菊榮 共譯 女性中心說
生物の根本は女性である男性は生物發達の途上に於ける女性の派生物で單に睪丸の獨立した者に過ぎぬと斷定した女性中心說の唱導は男性中心の現社會に一大脅威である譯筆亦輕妙にして興趣溢るゝ如し。
定價1,50 送料0,13

與謝野晶子著 愛、理性及勇氣
日本の女子は今や愉快なる自己革命の時機に達した女子自分自身の人間性と出來る丈堅實に且つ豐麗に開展させる事を祈願してゐる偉大なる女子改造に參加せんとする者は此の透徹したる提言に耳を傾けよ。
定價2,50 送料0,17

515
57

終